

末日聖徒イエス・キリスト教会・2002年9月号

リアホナ



リアホナ



表紙

表紙—「光と真理」サイモン・デュエイ画。

裏表紙—「彼に聞きなさい」サイモン・デュエイ画。
ユタ州アメリカンフォークにあるアルタス・ファイン・
アート社の厚意により掲載。



「フレンド」表紙

「主の収穫」マリリー・B・キャンベル画。
4ページの「はたけはすでに白くなり
かり入れをまっている」を見ましょ。

一般

- 2 大管長会メッセージ— 忍耐—天の徳
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 25 家庭訪問メッセージ— 生涯学習を重んじる
- 32 末日聖徒の声— 人々を愛し、支える
「主は生けりと知る」 フランシスカ・クリスティーナ・ビラー・レイ
「どうしてそんなに変わったのですか」 ファナ・リベロ・デ・ゴンサレス
信仰の大きな一歩 ウォルフレ・リカルド・ガリード
あきらめなかったホームティーチャー デビッド・ヘッド
- 38 生徒を動かす— レッスンへの参加を促す方法
ジョン・D・クレーボーとアンバー・バーロー・ダール
- 44 末日の預言者たち、福音の教えについて語る
- 48 『リアホナ』2002年9月号の活用法

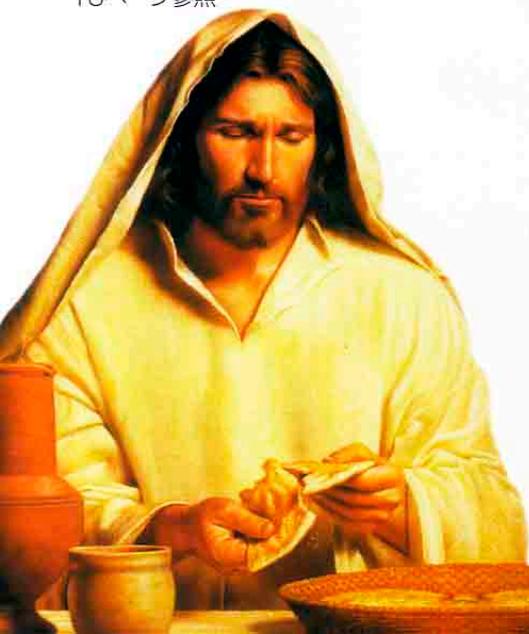
青少年

- 9 顔を合わせて語る クリスティーン・マスミ・キング
- 10 「彼らを最後まで愛し通された」 十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド
- 14 わが友、そして僕 仲間— ルアン・フェリックス・ダ・シルバの模範
七十人 クラウディオ・R・M・コスタ
- 16 「分かりやすく簡明な真理」— 若い男性と若い女性、6つのBに従う
- 22 最低、最悪の日 ブレンダ・ウィリアムズ
- 26 エルドラードの宝 リチャード・M・ロムニー、ネスター・ハビエル・パッセ
- 47 御存じでしたか？

フレンド

- 2 預言者の声— 天の窓を開く
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 4 分かち合いの時間— 「はたけはすでに白くなりかり入れをまっている」
ビッキー・F・マツモリ
- 6 ちいさなみんなのために— せんきょうしの毎日
- 8 サンディーの伝道表 クレーグ・E・ムーア
- 10 小さなお友だちへ— アトス・M・アモリム長老
- 12 新約聖書ものがたり— 金もちのせいねん/
イエス、ラザロを生きかえらせられる

10ページ参照



2ページ参照

47ページ参照



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュバンダー
顧問:J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、ステイブン・A・ウェスト

教科課程管理部責任者
実務運営ディレクター:ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター:ブライアン・K・クリー
グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ
編集主幹:マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド
編集副主幹:ロジャー・テリー
編集補助:スーザン・バレット
出版補佐:コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ
機関誌グラフィックスマネージャー:M・M・カワサキ
アートディレクター:スコット・パン・カンベン
デザイナー主任:シェリー・クック
デザイナー:トーマス・S・チャイルド
制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ
制作:レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、ケリー・プラット、ローランド・F・スピークス、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワーナー
デジタルプリプレス:ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ
ディレクター:ケイ・W・ブリッグス
配送部長:クリス・クリステンセン
マーケティング部長:ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—2000年8月 翻訳承認—2000年8月
原題—International Magazines September, 2002. Japanese. 22989 300

For Readers in the United States and Canada:
September 2002 no. 9. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



「正しかれ」

わたしのバプテスマ会で「正しかれ」(『賛美歌』151番)を歌ったときすぐに、これが自分にとって大切な賛美歌であることを感じました。2001年3月号の『リアホナ』(スペイン語版)に載ったリチャード・G・スコット長老の「正しかれ」というメッセージにも、強い感銘を受けました。『リアホナ』を読むことは、リフレッシュする時間を取るのと同じです。

ベネズエラ・マラカイステーク、マラカイワード
カルロス・アニバル・ギラルテ

完成に導く召し

わたしは会員になったとき、教会の召しのことは何も知りませんでした。ですから、若い男性を教えるように召されたときはとても驚きました。不安でしたが、ためらいはありませんでした。難しい責任でしたが、祈りと信仰によって、若い男性とわたしは神の原則を学ぶ第一歩を踏み出したのです。今では、教会の召しの祝福を理解できるようになりました。

また『リアホナ』(フランス語版)は、信仰を強めるのを助けてくれました。福音が伝えられていない村に行ったとき、『リアホナ』の助けがあって徳を保つことができました。家に帰れるまでの間、慰めを得ました。『リアホナ』のおかげでわたしの信仰は強くなったのです。

コンゴ民主共和国ルブンバシステーク、ゲカミネス第2ワード
ディエモ・カランバイ

『リアホナ』を読む喜び

わたしが6歳のときから、家には福音がありました。そして、『リアホナ』(スペイン語版)もいつも家にありました。自分でも読めることが分かっていたので、毎月『リアホナ』が父に届くのが楽しみでした。わたしは今、福音の中で子どもを育てています。そして、イエス・キリストが天の御父のもとへ帰る唯一の道であることを知っています。

フロリダ州オーランド南ステーク、ウィンディーリッジ(スペイン語)支部
ナンシー・ガリンド・デ・ベレス

イエス・キリストの証

イエス・キリストへの証があるというのは素晴らしいことです。そして、その証を人々と分ち合うのはそれ以上に素晴らしいことです。義を選び、モルモン書を読み、セミナーに出席することを通して、わたしは救い主の証を得ました。そのことに感謝しています。救い主は生きておられ、いつの日か再臨されることを証します。

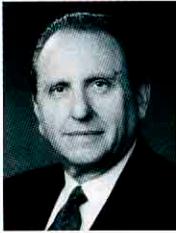
ブラジル・ソブラル地方部、ソブラル第1支部
ナヤネ・フロータ・ボンテス

学生の力となっている『リアホナ』

わたしは『リアホナ』を読むのが大好きです。掲載されている記事は愛と希望と勇気に満ちています。『リアホナ』を開く度に、天の御父とイエス・キリストの愛を感じます。また『リアホナ』は、学生であるわたしの日々の努力に力を与え、末日聖徒としてなすべきことを思い出させてくれます。

フィリピン・ブルゴステーク、アウロラワード
フロレンス・L・リカルド

忍耐 —天の徳



第一副管長
トーマス・S・モンソン

数年前、しばらくぶりに古い友人に会いました。彼はあいさつをして、こう尋ねてきました。「あなたの人生はいかがですか。」具体的に何と答えたか、覚えていませんが、彼のこの興味深い質問によって、わたしは多くの祝福や、人生そのものへの感謝、奉仕する特権と機会などを思い起こしました。

時には、これと同じような質問に予想しなかった答えが返ってきます。数年前、わたしはテキサスのステーキ大会に出席しました。空港でステーキ会長と会い、ステーキセンターへ向かう車の中で、わたしは尋ねました。「いかがですか、お変わりありませんか？」

彼はこう答えました。「1週間前にその質問をしてくださいればよかったのですが、今週はいろいろあって大変でした。金曜日にわたしは失業し、今朝、妻は気管支炎で寝込みました。午後には、うちの犬が車にひかれて死んでしまいました。それ以外はすべてうまくいっていると思います。」

忍耐という徳を实践する

人生に満ちている苦難は、ささいなものもあれば、重

大なものもあります。チャレンジは、すべての人に果てしなく与えられるように思えます。問題は、チャレンジに対して即座の解決を期待し、天の徳である忍耐が必要なことを忘れることです。

わたしたちが若いころに聞いた助言は、今でも適用できますし、心に留めるべきものです。例えば、「頭を冷やせ」「浮き足立つな」「落ち着け」「そんなに急ぐな」「規則を守れ」「慎重にやれ」などです。これらは単なる陳腐な表現ではありません。真の助言であり、経験からの知恵なのです。

若者たちが乗った車が、愚かで無謀なスピードを出して峡谷の曲がりくねった危険な道を走ったとしましょう。突然、車はコントロールを失って傾き、大切な若者たちもろとも、絶壁を越えて谷底に突っ込みます。彼らは障害者になるか、恐らくは若くして死んで家族を悲しませることになるでしょう。大はしゃぎをしている時間が、一生後悔する瞬間になるのです。

どうか、貴い価値を持つ青少年の皆さん、命を大切にしてください。忍耐という徳を实践してください。

逆境における忍耐

病気に伴う苦痛には忍耐が求められます。かつて地上に生を受けた唯一完全な御方、ナザレのイエスでさえ激しい苦痛に耐えるよう求められました。ましてや、完全

恐らく、ヨブの模範以上に忍耐を
表した例はないでしょう。
聖書によれば、ヨブは、そのひととなりか
全く、かつ正しく、神を畏れ、
悪から遠ざかった人でした。
まさに忍耐の手本のような人でした。



には及ばないわたしたちが、どうしてそのようなチャレンジから逃れられるでしょうか。

孤独な人、年老いた人、無力な人、人生に見捨てられたと感じる人が大勢います。時代は容赦なく前進して、考えている人、驚いている人、時々疑問を持つ人の視界から消え、彼らはその思いもろとも取り残されてしまうのです。このようにストレスの多い時代には、忍耐が、力強い友となります。

わたしは時々、老人ホームを訪問しますが、そこにも忍耐があります。ある施設の日曜日の集会に集ったとき、一人の少女が老人たちを慰めるためにバイオリンを弾きました。彼女は緊張していましたが、全力を尽くしたい、とわたしに告げました。弾き始めると、一人が叫びました。「まあ、何てかわいいお嬢さんだこと。演奏も見事だわ。」弦の上を走る弓の奏でる調べと、少女の指の優雅な動きは、その思わず漏らした褒め言葉に鼓舞されたかのようでした。実にすばらしい演奏でした。

後でわたしが少女とその優秀な伴奏者にお礼を言うと、彼らはこう答えました。「わたしたちは、体の弱っている人や病気の人、お年寄りを励ますために来ました。演奏を始めると恐れは消え、自分の心配や問題を忘れました。皆さんを励ませたかもしれませんが、実はわたしたちが鼓舞されたのです。」

時には立場が反対になります。明るく親切な若い友人、ソルトレーク・シティのウェンディー・ベニオンはその良い例でした。約7年前、彼女は静かにこの世を去り、「命を与えられた神のみもとへ」¹ 帰りました。彼女は5年以上の年月を、癌と闘ってきました。明るくて、いつも人を助け、信仰を失わない彼女の笑顔は、磁石が鉄の小片を引きつけるように、人々を引きつけました。ウェンディーが病による痛みにさいなまれていたとき、自分の問題で意気消沈した友達が訪ねて来たことがありました。母親のナンシーは、ウェンディーの痛みのひどさを知っているだけに、その友達の訪問が長すぎると感じました。そこで、彼女が帰った後、尋ねました。「どうして痛みのひどいときに、そんなに長く友達を引き止める

の。」ウェンディーはこう答えました。「友達のためにすることはわたしの痛みよりもずっと大切だし、もし友達を助けられたら、痛みなんか問題じゃないわ。」

救い主の忍耐

ウェンディーの態度は、主をしのばせます。主は世の悲しみを負い、激しい苦痛と失意に耐えられました。主は、生まれつき盲目の男のそばを通りかかると、静かに歩み寄って、見えるようにされました。またナインでは、嘆き悲しむ寡婦に近づいて、息子を死からよみがえらせられました。カルバリへの急な坂道を、残酷にも十字架を負い、絶え間ないあざけりとののしりにも心を乱さず、一歩ずつ歩かれました。人の神聖な行く末にかかわる使命を帯びておられたからです。実際に主は一人一人を訪れて教えを伝えられます。人に励ましを与え、慈しみを抱かせられます。主は御自分の命をささげられました。それにより、墓が勝利を得ないように、死がとげを持たないように、そして、永遠の命がわたしたちへの賜物となるようにされたのです。



**救い主は御自分の命をささげられました。
それにより、墓が勝利を得ないように、
死がとげを持たないようにされたのです。**

十字架から下ろされ、借り物の墓に埋葬された、この悲しみと嘆きの御方は、3日目の朝によみがえられました。主の復活は、マグダラのマリヤとほかのマリヤによっ

て発見されました。彼女たちが墓に近づくと、入り口をふさいだ巨大な石は転がしてありました。そして、輝く衣を着た二人の天使が現れて尋ねました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」²

パウロはヘブル人に、こう宣言しました。「こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。」³

その他の忍耐の例

恐らく、ヨブの模範以上に忍耐を表した例はないでしょう。聖書によれば、ヨブは、そのひととなりで全く、



主の復活は、マグダラのマリヤとほかのマリヤによって発見されました。彼女たちが墓に近づくと、二人の天使が現れて尋ねました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」

かつ正しく、神を畏れ、悪から遠ざかった人でした。⁴ また、豊かな富と財産に恵まれていました。サタンは主の許可を得て、ヨブを誘惑しようとしてしました。ヨブは何と大きな苦痛を受け、多くのものを失い、人生をねじ曲げられたことでしょうか。妻から、神をのろって死ぬことを勧められましたが、ヨブは後に信仰を示してこう答えました。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる。末の日に彼は必ず地の上に立たれる。わたしの皮のうじがこの体を滅ぼしたのち、わたしは肉にあって神を見るであろう。」⁵ 何という信仰、何という勇氣、何という信頼でしょう。ヨブは財産をすべて失い、健康も失いましたが、主を信頼し続けました。まさに忍耐の手本のような人でした。

忍耐の徳を表した、もう一人の人は預言者ジョセフ・スミスです。聖なる森で御父と御子の訪れを受け、神聖な経験をした後に、ジョセフは待つように求められました。以来、自分の信仰のために3年以上にわたってあざけられた後、ようやく天使モロナイの訪れを受けました。それからさらに待たされ、忍耐が求められました。イザ

ヤ書の勸告を思い出してみましょう。「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」⁶

救い主の招き

慌ただしい生活を送る現代にあって、昔、危険な道路を横断するときに教えられた教訓的な言葉に立ち返るとよいでしょう。それは、「止まれ、見よ、聞け」という標語です。これはどのように現在に当てはまるのでしょうか。滅びに至る無謀な道で止まり、天を見て助けを求め、主の次の勧めを聞くのです。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」⁷

主は次の詩にある、美しい真理を教えてください。

「人生はみせかけのものではない、



まず、祝福師が聖任され、テキストが発行されました。ワードとステークが組織されました。礼拝堂やステークセンターが建てられました。そして奇跡の中の奇跡、神の聖なる神殿の建設が許可されました。

わたしは会員たちの真剣さに心打られました。その貧しさを見てへりくだりました。また、祝福師がいないことに胸が痛みました。ワードもステークもなく、あるのは支部だけです。エンダウメントや結び固めなど、神殿の祝福も受けられません。長い間、教会本部からの公式の訪問者もいませんでした。会員たちは、国外に出ることを禁じられていました。しかし、心の底から主を信頼し、自分の知恵には頼りませんでした。すべての道において主を認め、主から導きを受けていました。¹¹ 説教壇に立ったわたしは、目を潤ませ、感動で声を詰まらせながらこう約束しました。「皆さんが神の戒めに忠実であるなら、ほかの国の教会員が受けているすべての祝福が、皆さんのものになるでしょう。」

その晩、わたしは自分が約束したことを思い返し、ひざまずいて祈りました。「天のお父様、わたしはあなたの僕であり、これはあなたの教会です。わたしの話した言葉は、わたしからでなく、あなたと御子から出たものです。ですからどうか、この気高い会員たちへの約束が

成就しますように。」そのとき、わたしの心に詩篇の言葉が浮かんできました。「静まって、わたしこそ神であることを知れ。」¹² 忍耐という天の徳が求められたのです。

約束は、少しずつ成就していきました。まず、祝福師が聖任され、テキストが発行されました。ワードとステークが組織されました。礼拝堂やステークセンターの建設が始まり、完成し、奉獻されました。そして奇跡の中の奇跡、神の聖なる神殿の建設が許可され、設計、建築へと進み、やがて奉獻されました。さらには、50年ぶりに専任宣教師の入国と、地元の若人が国外で伝道することが許可されました。さらに、エリコの石がきのようにベルリンの壁が壊され、自由がそれに付随する責任とともに返ってきたのです。

35年ほど前の貴重な約束は、一つを除いてすべてが成就しました。あの約束が与えられた小さな町、ゲルリッツにはまだ礼拝堂がなかったのです。しかし、その夢が現実になりました。建設が許可され、完成したのです。奉獻の日がやって来ました。妻とわたしは、ディーター

ー・ワークトドルフ長老夫妻とともにゲルリッツの奉献式に出席しました。何十年も前のあのときと同じ歌が歌われました。会員たちは、約束が完全に成就したこのときの重要性を知っていました。歌いながら泣いていました。義人の歌はまさに主への祈りであり、それに対する答えとして、彼らの頭こうべに祝福が注がれるのです。¹³

集会が終わっても、去り難い気持ちでいっぱいでした。会場から出るとき、皆が手を振り、歌ってくれました。「アウフ、ビーダゼーン、アウフ、ビーダゼーン、神よまた会うまで、汝れを守りませ」と。

天の徳である忍耐は、謙遜な聖徒たちに、天の報いをもたらしました。ラドヤード・キップリング（1865-1936年。イギリスの作家）の「リセッションナル」（Recessional）の詩がそのときの気持ちにぴったりだと感じました。

「喧噪と叫び声がやみ
司令官や王は世を去っても
いにしえの主の犠牲と、
へりくだり悔いる心は残る。
万軍の主なる神よ、我らとともにおりたまえ。
我らが主の犠牲と贖いあがなを忘れぬために。」¹⁴ □

注

1. アルマ40：11
2. ルカ24：5-6
3. ヘブル12：1



**わたしたちはゲルリッツで奉献式
行いました。会員たちは、その式の
重要性を知っていました。
歌いながら泣いていました。**

4. ヨブ1：1参照
5. 欽定訳ヨブ19：25-26より和訳
6. イザヤ55：8-9
7. マタイ11：28
8. ヘンリー・ワーズワース・ロングフ
ェロー, "A Psalm of Life," 5-8行
9. "Jesus Loves Me!" *Alexander's
Gospel Songs*, チャールズ・M・アレクサ
ンダー編 (1908年), 139
10. "If the Way Be Full of Trial, Weary
Not" *Deseret Sunday School Songs* (1909
年), 158番
11. 箴言3：5-6参照
12. 詩篇46：10
13. 教義と聖約25：12参照
14. "God of Our Fathers, Known of Old," 『賛美歌』(英文) 80番

ホームティーチャーへの提案

このメッセージについてどのように話し合いを進めていくか考えるとき、以下の例を参考にしてください。

1. 家族の一人に、忍耐を要し、助けを求めたくなるような作業をしてもらおう。例えば、複雑なパズルを正しく並べる、難しい数学の問題を解く、聖典の中から難しい章を読んで解説する、など。そして、以下のような質問をする。「その作業が難しく思えたのはどうしてですか。」「それを成し遂げるうえで、どれほど忍耐が必要でしたか。」

2. 家族の皆に、救い主がどんな場面で忍耐を示されたか話してもらおう。マタイによる福音書第11章28節に記されたイエスの約束は、人がいっそう忍耐力を身に付けるうえでどのように助けとなるか、話し合う。

3. 忍耐力を備えていたので助けとなった経験を話し、家族にも忍耐に関する経験を分かち合うよう勧める。生活する中で、忍耐することがいかに大切か証する。



モーセは
「人がその友と語る
ように」主と語りました。
わたしも同じことを
しようとしたとき、
すばらしいこと
が起きました。

顔を合わせて語る

クリスティー・マスミ・キング

わたしはそれまで旧約聖書をおとぎ話、つまり自分の生活にあまり関係のない、よくできた物語と同様に見なしていました。自分とは何千年もの歴史に隔てられ、現実と懸け離れたことのように思えたのです。でもわたしのセミナーの教師は旧約聖書が大好きで、彼の熱心で謙遜な証のおかげで、わたしはこの聖典に対して次第に敬虔の念を強く抱くようになりました。

ある夜旧約聖書を研究していると、次の聖句に出会いました。「人がその友と語るように、主はモーセと顔を合わせて語られた。」(出エジプト33:11)

その言葉を読んでも最初は特に心を動かされたわけではありませんでした。「主はモーセに語られた。もちろんそうでしょうね」と感じました。主が御自身の預言者の一人に個人的に御姿を現されるのは、至極当然のように思えました。

それからわたしはお祈りをし、真剣にその聖句について思い巡らし始めました。その夜、天の御父はわたしに御姿を現してはくださらないでしょうが、わたしにも「人がその友と語るように」天の御父に語りかけてみることはできると思いました。そのとき、天の御父の愛に包まれるのを感じました。

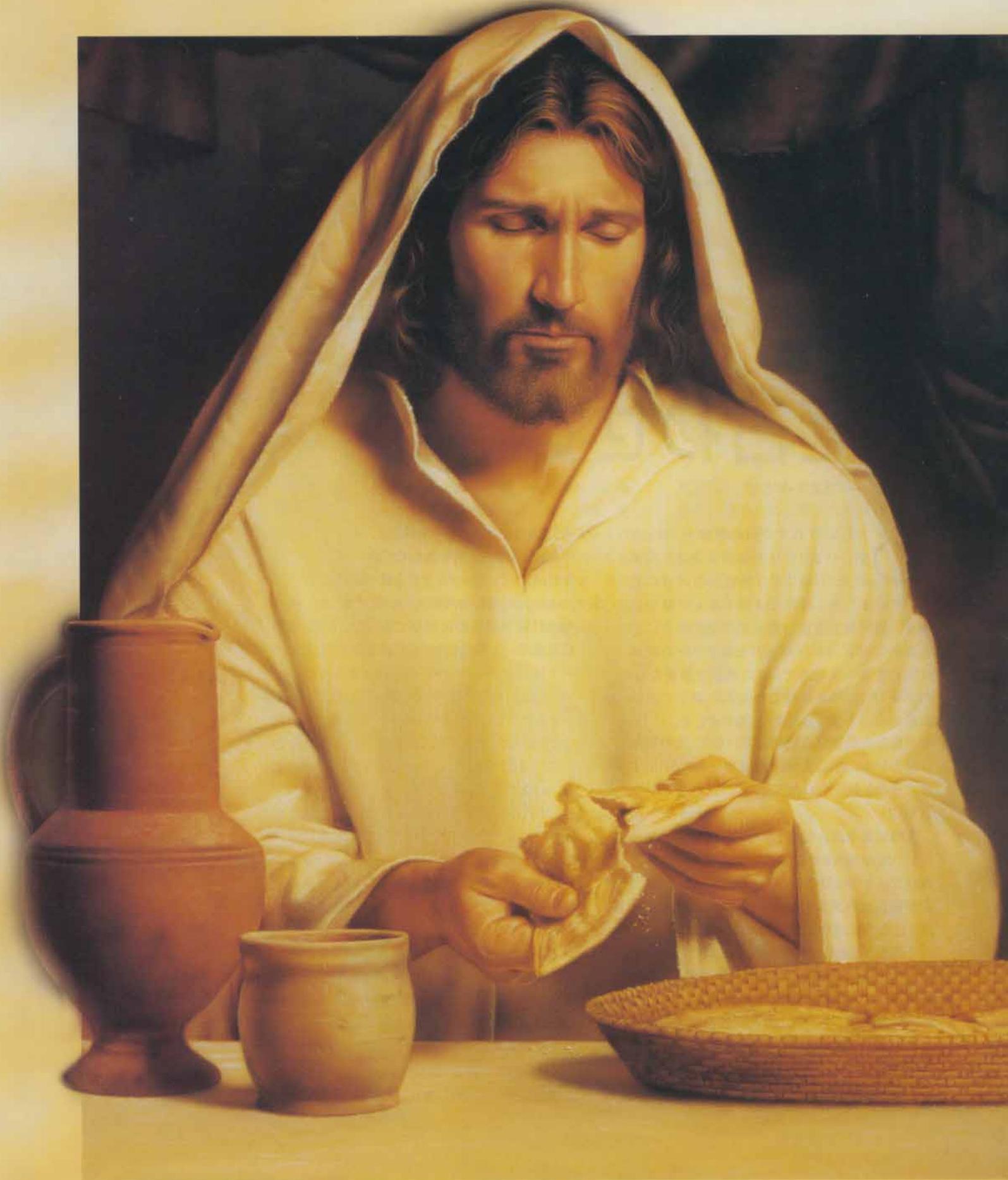
祈りながら、先ほど読んだところを自分の言葉で

こう言いました。「モーセは友達のように、あなたと顔を合わせて語りました。」そこで止め、それを繰り返しました。

ふいにわたしの理解の目が開けました。モーセの経験が現実の出来事であったことは、非常に意義深いと同時にとても明確なことでした。モーセは確かに顔を合わせて神とまみえたのです。突然旧約聖書の時代が身近なものとなり、モーセもわたしと同じように死すべき人間であったことを悟りました。そしてその聖句がわたしの心に息づき始めました。モーセはまさに実在し生きていたのです。そしてモーセでさえチャレンジを経験し、自信を失ってもがき苦しんだこともあったのです。でも彼は、わたしがこの地上における自分の父親と話すように、メシヤにしてイスラエルのエホバ、モーセの主であり贖い主である御方、そしてわたしの主であり贖い主でもある御方と話をしたのです。

「天のお父様」とわたしは再び祈りました。「ほかの何にも増してわたしが望むのは、あなたのみもとに帰ることです。」祈りを終えるとわたしはベッドに入りました。天の御父の愛を、それまで以上にはっきりと感じました。□

クリスティー・マスミ・キングはブリガム・ヤング大学第19ステーク、BYU第162ワードの会員です。



「彼らを最後まで 愛し通された」



十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド

賛意の表明をしてくださっている教会の忠実な会員の皆さんに心から感謝いたします。人を「支持する」ということは簡単なことではありません。支持するとは、文字どおりには「持ち上げる」、あるいは「支える」という意味です。生命を支えることは、養いはぐくむことです。友人や隣人、さらには見知らぬ他人を支持することは、励まし、力づけ、助けることです。直面する問題の重みに耐えられるように、わたしたちは互いに支え合います。人生で各自が苦難を経験するとき、互いに重荷を負い合うのです。

イエスは支持してください

わたしたちの経験のあらゆる面について言えることですが、主イエス・キリストは、この非常に重要な「支持する」という点においても模範を示してくださっています。イエスは尽きることのない力強さと、すべてを堪え忍ぶ忍耐力を備えておられます。この世の生涯を終える間際に、主は人類に対する揺るぎない献身をそれまで以上に明確な形で示されました。そのとき、主は人々の支えを何よりも望まれたことでしょう。

わたしたちの経験のあらゆる面について言えることですが、主イエス・キリストは、この非常に重要な「支持する」という点においても模範を示してくださっています。

最後の過越すきこしの祭の聖なる晩餐ばんさんが準備されていたとき、イエスの心は引き裂かれんばかりでした。主だけが目前に待ち受けている出来事を知っておられましたが、「人の子はこれらすべての下に身を落とした」と言われるまで恐らく（教義と聖約122:8）、主御自身でさえもこれから受けなければならない苦みの深さを、完全には予期しておられなかったと思われま

す。このような思いを抱きながら晩餐を取るさなか、キリストは静かに立ち上がり、奴隷あるいは召し使いのように仕度を整え、弟子たちの足を洗うためにひざまずかれました（ヨハネ13:3-17参照）。この地上に設立されて間もない神の王国に属する小さな信徒の団は、最も過酷な試しを受けようとしていました。そこで、キリストは御自分の強まる苦痛にもかかわらず、なお再び弟子たちに仕え、彼らを力づけられたのです。だれ一人として主の足を洗わなかったことは問題ではありません。イエスは比類のない謙遜さをもって弟子たちを教え、清め続けられました。この世の生涯を閉じる寸前、さらにその後までも弟子たちを支える僕しもべとして仕えられたのです。その場に居合わせ、この奇しき出来事のすべてを目の当たりにしたヨハネは、次のように記しています。「イエスは……世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。（ヨハネ13:1）

キリストはそのときまでそうであったように、その夜も、苦痛を身に受けている間も、さらには永遠にわたってお変わりにはなりません。いかなるときでも弟子たちの力となり、御自身の内にどんな苦悩があろうとも彼らを支えるという務めをないがしろになさることはありませんでした。

近東の月夜の静けさの中で、老若男女を問わず、人類すべてが経験するあらゆる痛苦、悲嘆、非道な仕打ち、



傷をイエスは御自分の疲れ切ったその両肩に負われました。むしろ主御自身が慰めの言葉を受けて然るべきこのようなときに、イエスは人々にこう言われたのです。「あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

またこのように言われました。「あなたがたは泣き悲しむ……。」——寂しさや恐れ、時には迫害を経験するであろう。「……が、その憂いは喜びに変わるであろう。……勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16:20, 33)

苦しみを目前にしたこのような晩に、イエスはどのようにして勇気を出して喜ぶように、と語ることがおできになったのでしょうか。しかし、主はこのようにいつも人に祝福を与え、最後の最後までいつもこのように語られたのです。

イエスは堪え忍び、勝利を収められた

差し迫る出来事を弟子たちがどれほど理解していたかは分かりませんが、キリストが御一人で最期を遂げられたことは確かです。主が弟子たちに率直に御自分の思いを打ち明けられた次のような言葉があります。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。」(マタイ26:38)それから彼らを離れ、御自分にしかなし得ない業に就かれたのです。世の光である主は人々を離れ、御一人で暗黒の君と対決するためにゲツセマネの園に入られたのです。前に進みひざまずき、うつ伏せになった主は、わたしたちには計り知れない苦痛に満ちた声を上げられました。「わが父よ、も

しできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」(マタイ26:39)しかし、その願いはかなわぬことであり、わたしたちのためにこの苦い杯を飲み干さなければならないことをイエスは御存じでした。

無理もないことですが弟子たちは疲れていたのでしょう、すぐに眠ってしまいました。キリストは眠けを感じられなかったのでしょうか。疲れておられなかったのでしょうか。このような苦しい過酷な試練に耐えるには、休息と眠りがどんなにか必要だったことでしょうか。しかしこのときにも、またいかなるときにも、イエスにとってそれはまったく取るに足りない問題でした。主は堪え忍び、勝利を収められたのです。ひるんだり、わたしたちを見捨てたりなさることは決してありません。

十字架上にあつてさえも、イエスは慈悲深く、王らしく振る舞って君臨されました。御自分の肉を裂き、血を流した人々に対してイエスはこのように言われました。「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34)それから、隣にはりつけにされた、罪を悔いている盗人には、パラダイスに行くことを優しく約束されたのです。愛する母親には、両手を差し伸べて愛情を表現することこそできませんでしたが、彼女を見詰め、こう言われたのです。「婦人よ、ごらんください。これはあなたの子です。」そしてヨハネに母親の後ろを頼み、こう言われました。「ごらんください。これはあなたの母です。」(ヨハネ19:26-27)イエスは人々を氣遣われましたが、特に母親を最後まで心にかけておられたのです。

イエスは最終的には御一人で贖いの酒ぶねをお踏みにならなければなりません。しかし、だからといって、すべてのうちで最も暗い瞬間、最大の苦痛の衝撃に耐えることが可能なのでしょうか。その苦痛はいばらや釘によるものではなく、まったくの孤独感を味わう恐怖から来るものです。「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ……わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」(マルコ15:34)一体、主はわたしたちの罪に加えてさらに

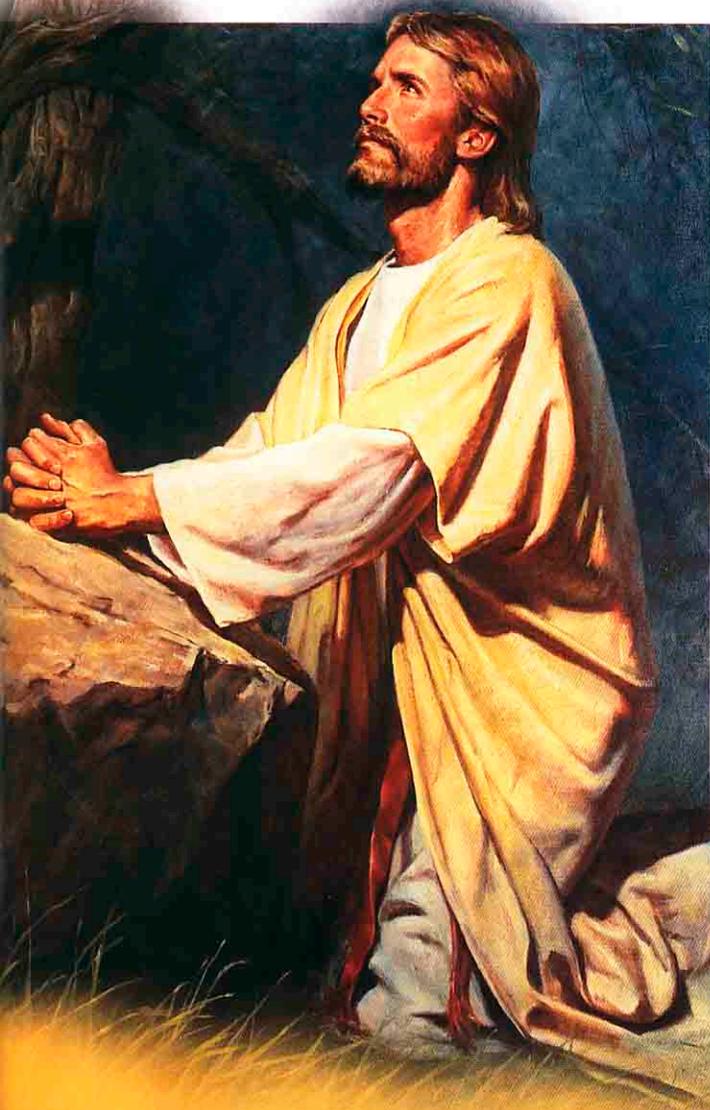
キリスト御自身やわたしたちがすべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐えることができるのはキリストの純粋な愛によるのです。

は恐れや孤独のすべてを背負うことができになるのでしょうか。イエスは背負われました。そして、現在もそうされており、将来もそうされるのです。

どのようにしてその大なる悲しみに耐えることができになるのか、わたしたちには知る由もありません。太陽もいたたまれずに顔を隠し、神殿の幕が引き裂かれ、完全な御子の苦しみに地が震えたのも不思議ではありません。少なくともこの一部始終を見ていた一人のローマ人の軍隊長は、事の重大さを感じ取り、恐れおののいて次のような永遠に至る宣言をしたのです。「まことに、この人は神の子であった。」(マタイ27:54)

キリストの純粋な愛はいつまでも絶えることがない

人生にはある程度の恐れや失敗が付き物です。物事が



思ったようにうまくいかないことがよくあります。公私にわたりもうこれ以上進む力が自分にはないように思われることもあります。時として、期待を裏切られたり、経済状況などの周りの事情で窮地に追い込まれたり、困難や心痛のために深い孤独感に襲われたりすることもあります。

しかし、このような逆境にあるとき、わたしたちを決して見捨てないものが一つあることを証^{あかし}します。それだけが、あらゆる時代を超え、苦難や問題、罪を超越して存在するのです。いつまでも絶えることがないもの、それはキリストの純粋な愛です。

世の救い主に向かってモロナイは叫びました。「わたしはあなたの言われたことを覚えています。あなたは、世のために御自分の命を捨てるほどこの世を愛したと言われました。……あなたが人の子らに対して抱いておられたこの愛が慈愛であることを、わたしは存じています。」(エテル12:33-34)

一つの神権時代の消滅と一つの文明のすべてが崩壊するのをその目で見たモロナイは、後の世、すなわち末日において耳を傾ける人々に向けて父親の言葉を引用して語りました。「もしあなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは何の価値もない。」(モロナイ7:46) キリストの純粋な愛だけが最後までわたしたちを見守ってくれるのです。長く堪え忍び、親切であり、容易に怒らず、悪事を少しも考えない、それこそキリストの愛です。キリスト御自身やわたしたちがすべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐えることができるのはキリストの純粋な愛によるのです(モロナイ7:45参照)。

「おお、聖なる愛よ
感謝^{さき}を捧げん
みこころによりて
われは贖^{あがな}わる」
(「神は世を愛し」(『賛美歌』107番))

この世にいるわたしたちへのキリストの愛は最後まで続くことを証します。キリストの純粋な愛は決してわたしたちを見捨てることはありません。現在も過去においても、そして永遠に。□

この記事は、1989年10月の総大会説教を基に書かれました。

ブラジル、レシフェ

わが友、そして僕仲間^{しもべ}

ルアン・フェリックス・ダ・シルバの模範



七十人
クラウディオ・R・M・コスタ

救い主の説教の中の、羊とやぎのたとえについて考え、主に仕える人々へのすばらしい約束(マタイ25:31-46参照)

に思いをはせると、ルアンという年若い少年のことが心に浮かびます。

ルアンに初めて会ったのは、2001年2月にブラジルのレシフェで行われた若い男性のキャンプでした。ブラジルはちょうどカーニバルの真っ最中で、例年この時期に当たる4日間の休暇中には無秩序なパーティーが繰り広げられるのが常でした。カーニバルの期間に合わせて、ステーキではたいいユースカンファレンスやキャンプを開催し、末日聖徒の青少年にカーニバルに代わる健全な娯楽の場を提供します。ブラジル北地域会長会長の任務の一環として、わたしはブラジルのレシフェ・ポアビアゲムステーキで開催された若い男性のキャンプを訪問したのです。

初めて会ったルアンはとてもやせていて、頭には髪の毛一本ありませんでした。しかし彼にはたくさんの友達がいることに気づきました。ルアンは12歳になったばかりで、このキャンプで執事に召される予定であることを知りました。

また、ルアンの左足が骨の痛^{かん}に侵されていることも知りました。事実、癌の進行がとても速く、すぐにでも足を切断しなければならぬと、キャンプの直前にルアンは告げられたのでした。けれどルアンはキャンプに参加してアロン神権を授かることを切に願っていました。また、足を切断する前に最後に友達とサッカーをすることを望んでいたため、主治医が執刀を1週間延期することに同意してくれたのです。

教会で兄弟たちに囲まれて、ルアンは文字どおり喜びに輝いていました。日曜日に神権を授与されたとき、ルアンは福音に対する自分の信仰についてすばらしい証^{あかし}をし、ま

た救い主の愛に感謝しました。

わたしはルアンのところへ行き、すぐに友達になりました。手術の後、ルアンのワードの監督であるオザニ・ファリアスとステーキ会長モザルト・B・ソアレスと一緒にルアンの家へお見舞いに行きました。この良き指導者たちは、ルアンが人生で得た祝福でした。彼らはいつもそばにいて、ルアンを慰め、支え、援助するのです。

ルアンの家では、御霊^{みたま}を強く感じました。ルアンは母親やきょうだいと一緒に8か月前に教会に入ったばかりでした。家庭には父親がおらず、家族を養うために母親は一生懸命働いていました。小さな家は清潔に整えられており、この簡素な家には特別な家族が住んでいるということがわたしには分かりました。

ルアンの家を訪れたとき、彼の家には基本的なものの多くが不足していることに気づきました。例えばベッドがないので、ルアンは寝心地の悪い長いすに寝起きしていたのです。そこで「何か必要なものがありますか」と家族に尋ねると、こう答えました。「わたしたちには福音があります。教会には友達がいるし、わたしたちは幸せな家族だと思います。お気遣いありがとうございます。でも、ほかに必要なものは何もありません。」

わたしたちの訪問後間もなく、ルアンの容態が悪化しました。主治医は脊髄^{せきずい}の根元に大きな腫瘍^{しゅよう}があると言いました。外科手術では除去できないため、ルアンはもう一度化学療法を受けるために病院へ行きました。

ある晩、ソアレスステーキ会長と一緒に病院に行ってみると、ルアンは激痛に苦しんでいました。ルアンはわたしたちに幾つか質問をしました。その中には「死とは何ですか」「死んでいくときはどうなるのですか」というものもありました。

死とは永遠の中の一部であって、死ぬことで扉が閉じられるのではなく、神のいらっしゃる所へ戻って行く扉が開かれるのだと話しました。ルアンはわたしの説明を理解してほほえみ、「ぼくはもう覚悟ができました」と言いました。そ

してルアンに請われ、わたしたちは彼に祝福を授けました。

ルアンの隣のベッドには、ペドロという名の14歳の少年がいました。ルアンが祝福を受けるのを見て、今度はペドロも祝福を受けたいと言いました。イエス・キリストを信じる信仰がありますかと尋ねると、ペドロはあると答えました。そこで神権について説明し、わたしたちはイエス・キリストの名によって祝福を施すのだということを話しました。祝福を受ける間、ペドロは目を閉じてほほえんでいました。すると今度は18歳の若い女性が同じように祝福を施してほしいと言いました。

ルアンと母親がこれまでペドロをはじめ、痛で苦しんでいる多くの若い患者とその両親を慰めてきたことを知りました。その夜病院を後にしたわたしは、苦難にあえぎながらも人々を訪問し、必要を満たすべく仕える強さを保っているルアンと母親の姿に心を打たれました。

「退院したら何がしたいですか」とソアレス会長が尋ねると、ルアンは「ブラジルのレシフェ神殿で身代わりのバプテスマを受けたいのです」と答えました。ルアンの退

院後、ソアレス会長とファリアス監督はその願いをかなえるためにルアンを助けました。ルアンは体力の許すかぎりできるだけ多くのバプテスマを受けました。神殿での一日を終えると、激痛にさいなまれながらも、人々のためになることができた喜びでルアンは満面に笑みを浮かべていました。

ルアン・フェリックス・ダ・シルバは2001年8月20日に亡くなりました。僕仲間であるわたしの友を思うとき、次のような救い主の言葉が心に浮かびます。

『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、……あなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞

〔つて〕くれたからである。』すると、王は

……言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟で

あるこれらの最も小さい者の

ひとりにしたのは、すなわち、

わたしにしたのである。』」

(マタイ25:34-36, 40) □

ルアンは決して奉仕をやめることはありませんでした。痛みにも苦しみながらも、ルアンはブラジルのレシフェ神殿に参入しました。挿入写真——ルアンとコスタ長老、オザニ・ファリアス監督、ルアンの母親





「分かりやすく簡明な真理」

若い男性と若い女性、 6つのB に従う

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、2000年11月12日に行われた特別ファイヤサイドで教会の青少年と独身成人に話をしました（「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30-41参照）。大管長のメッセージは、若い人々が正しい決断をし今日の世の様々なチャレンジに適切に対応する助けとなる6つの原則、すなわち6つのBに焦点が当てられていました。本誌では若人の皆さんに、ヒンクレー大管長の勧告に従って経験した事柄を分かち合うよう呼びかけました。次に紹介するのは、受け取った多くの返事のほんの一部にすぎません。

長 い1週間でした。わたしはファイヤサイドの放送会場に遅れて入りました。試験や宿題、仕事、友達のことを考えないように努力し、何とか預言者の言葉がこうした心配事を取って代わってわたしの心にとどまるように願っていました。

どれほど預言者の言葉に集中したいかと思ひ、心の中で助けを祈り求めたことでしょうか。祈りはこたえられました。ファイヤサイド会場に入るとき、わたしは困惑し、不安でいっぱいでした。けれども会場を去るときには、新たな人生観を持つようになり、分かりやすく簡明な真理、すなわち幸福を得る方法を学んだのです。

感謝する人になりましょう。知性を備えた人になりましょう。清い人になりましょう。誠実な人になりましょう。謙遜な人になりましょう。よく祈る人

になりましょう。これらの言葉は何と簡明でしょう。わたしの人生を何と大きく変えることでしょうか。

わたしは、この福音にはほかでは得ることのできない真理があることを知っています。預言者がわたしを愛してくれていることを知っています。天のお父様と救い主がわたしたちを愛してくださっていて、祈りを通じて、また預言者の言葉を通じて、わたしたちの生活に具体的かつ個人的な導きを与えてくださることに感謝しています。これらの事柄は分かりやすく、簡明で、真実です。

オーストラリア・
エイトマイルプレーンズステーキ、
ロチェデールワード
リサ・ウェア、19歳

感謝する人になりましょう

『「ありがとう」と言う習慣は、教養

ある男女のしるしです。……皆さんのことをいつも心にかけて、皆さんを養うために一生懸命働いている両親に感謝してください。』——ゴードン・B・ヒンクレー大管長

ヒンクレー大管長のお話を読み終えたとき、わたしは喜びと悲しみの混ざった不思議な気持ちでした。わたしは高校生です。学校にかかる費用はすべて両親が支払っています。わたしはそれを当然のことだと考えていました。また、服や食べ物、そして必要なものは何でも両親が買ってくれるものだと思っていました。これが普通の生活だと思っていました。わたしは「ありがとう」という言葉をほとんど言ったことがありませんでした。欲しい物が手に入らないと怒りました。今、わたしはこのお話を読み終えて、恥ずかしくなりました。物が与えられていることは、



感謝する人に
なりましょう

ほんとうに幸せなんだということに気がつきました。「ありがとう」という言葉はすばらしい言葉だと思います。

日本岡崎ステーキ、
刈谷ワード
近野 英, 13歳

「歴史上すばらしいこの時期に主の驚くべき教会が回復されたことを主に感謝してください。主の教会から得られるすべてのことに感謝してください。友人や愛する人々、両親や

兄弟姉妹、家族が与えられていることを主に感謝してください。昼も夜も感謝の気持ちを胸に抱き、そこから導きと祝福を受けてください。」——ゴードン・B・ヒンクレー大管長

わたしは小さいころによく、両親や家族のところに行っているいろいろなものをもたらしました。でも、とても小さかったので、「ありがとう」と言えませんでした。感謝とはどういうことか分からなかったのです。それでも、大きくなるにつれて次第に感謝について理解するようになりました。神に対する態度にも同じことが言えます。わたしたちは神に祈り、お願いをします。すると神は、適切な答えと祝福を与えてくださいます。けれども、わたしたちは感謝を示さないことが時々あります。心から神に感謝すれば、わたしたちが受ける祝福は確かにもっと大きくなることでしょう。

台湾桃園ステーキ、
桃園第2ワード
江 前彦, 14歳

知性を備えた人になりましょう

「皆さんは教育の大切さを教える教会に属しています。……主は皆さんが自らの知性と技術を磨き、周囲に良い影響を与えつつ人生を送ることができるようにと望んでおられます。そうするとき、また称賛に値する優秀な働きをするときに、皆さんは社会から高潔で有能で良心的な働きをする人物という評価を受け、教会に名誉をもたらすことができます。」

——ゴードン・B・ヒンクレー大管長

わたしはヒンクレー大管長のメッセージを聞いた後、人生

における多くの決断をしました。もっと良い教育を受けるためにあらゆる努力をしようと決心しました。わたしは今、大学生です。大学の授業でしっかり学びながら、同時にインスティテュートを受講することは、時々わたしにとって大変なことでした。どちらかをないがしろにしまったこともあります。しかし今、わたしたちが知性を備え、数々の事柄を成し遂げることを主が望んでおられるということがはっきり分かりました。そこでわたしは、大学の卒業と同様にインスティテュートを卒業することも決心しました。

ファイヤサイドではメモを取りましたが、『リアホナ』（スペイン語版）に話の全文が掲載されたので、ヒンクレー大管長の言葉をもう一度じっくり学ぶことができました。そして、大管長の言葉は今もなお、まるで今聞いたばかりのこのように、わたしを力づけてくれています。どこに住んでいようと、つまり、わたしがいるような小さな国でも、あるいは大きな国でも、預言者の声に耳を傾け勧告に従うなら、主はわたしたちの人生を祝福し、さらに善い人になれるように助けてくださるということを、わたしは知っています。

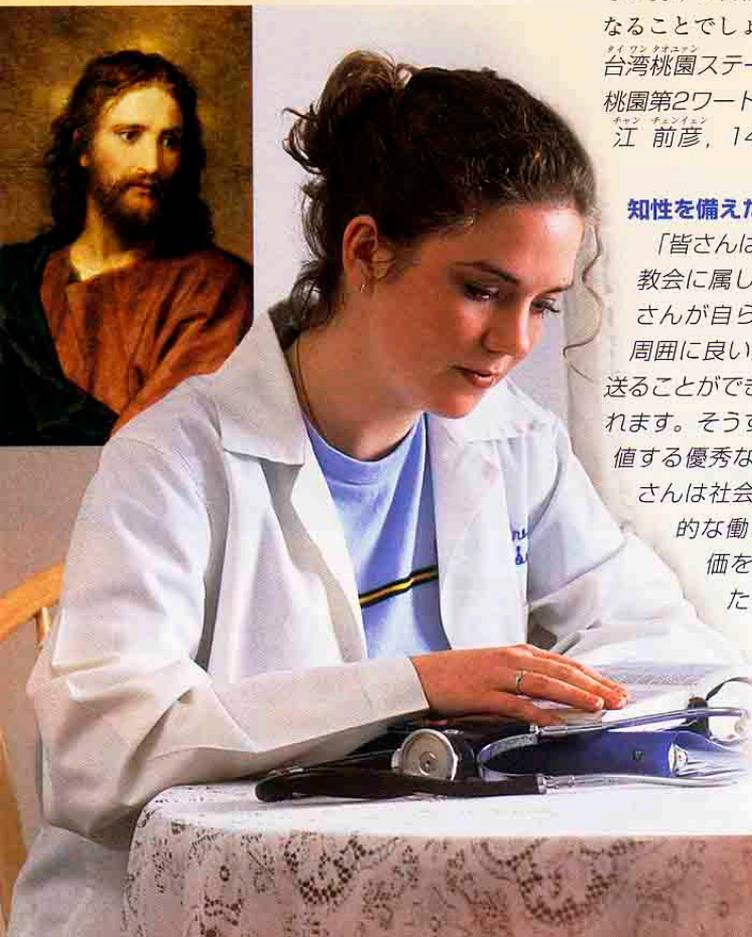
ペルー・リマ・ラスビオレタスステーキ、
ジョブワード

ジェニー・エリサ・ジャイメス・ウタニ、
23歳

清い人になりましょう

「〔違法な薬物〕は、手を染めるなら、皆さんを破滅に追い込みます。皆さんは奴隷になります。……すばらしい人々である若い男性と女性の皆さんに対するわたしの勧告、わたしの心からの願いは、麻薬から徹底

知性を備えた人になりましょう





ダニエラ・ブロッカ, 16歳

誠実な人になりましょう

「この教会の会員である皆さんは、教会に忠誠を尽くさなければなりません。これは皆さんの教会です。…皆さんは教会の福音を受け入れました。皆さんはバプテスマの水に入って聖約を交わしました。この聖約を皆さんは聖餐^{せいさん}を受ける度に、新たにしてきました。……頭を高く上げ、信仰をもって〔神〕の御前^{みまへ}を歩んでください。……主は地上に偉大な目的をもって、王国を回復されました。その王国の会員であることに誇りを持ってください。」—ゴードン・B・ヒンクレー大管長

今の世の中は危険で、誘惑に満ち

清い人になりましょう

的に遠ざかるように、ということです。……人の精神に悪影響を与え、やみつきにしてしまうこのような中毒を遠ざけ、清さを保ってください。」—ゴードン・B・ヒンクレー大管長

わたしは16歳で、危ない誘惑に出遭っています。ヒンクレー大管長の話を聞かなかったら、対処する方法が分からなかったかもしれません。

ある日学校で一人の友人がわたしたちを呼び、あるものを見るように言いました。彼女が持っているものを見ると、それはマリファナという麻薬でした。わたしは怖くて真っ青になってしまいました。試してみるように友人から言われたとき、わたしは何も考えずに大声で言いました。「あなたはおかしいわ。こんなもの持っているべきじゃない。行きましょう。」

友人はわたしの言葉に耳を貸しませんでした。そこでわたしは、グループの友人一人一人の心を動かす力を与えてくださるよう心の中で祈りました。わたしはその包みをつかんで、投げました。最初、友人たちは怒りましたが、わたしは自分の安全と幸せを思う気持ちを抑えられませんでした。わ

たしはその機会をとらえて、マリファナは良くないことを説明しました。

みんなと話すうちに、わたしはヒンクレー大管長が麻薬について語った言葉を思い出し、友人たちに伝えることができました。わたしが心の中に蓄えていたその言葉^{みたま}を主の御霊がささやいていたことを確信しています。

ブラジル・サンパウロ・パーケプリストルステーク、
ヤーディム・ダ・サウデワード

誠実な人になりましょう





謙遜な人になりましょう

ています。ヒンクレー大管長のお話を読んでから、教会の教えに従わなければならないことを今まででいちばん強く感じました。お話に出てきたBの中で、今わたしにとって特に重要なのは「誠実な人になる」ということです。

今年学校が始まってから、何人か新しい友人ができました。ある日、福音について話す機会がありました。わたしは教会で見た、6つのBについてのビデオを思い出しました。ビデオを見ていたとき、わたしは安らかな御霊に満たされ、「教会について自信をもって話すことができる」という確信を得ました。そうした機会が

訪れたとき、わたしは確かに自信をもって話すことができました。その機会に感謝しています。

後になって、日本語の『リアホナ』でこのお話を読んでいたとき、「自己に忠実であれ」という有名な言葉が目にとまりました。何か大きな決断を迫られるときに、この言葉は正しい道へと導いてくれます。ほかのBももちろん重要ですが、わたしが最も望むことは自分自身に誠実になるということです。

日本仙台ステーキ、
泉ワード
梶原 さくら、15歳

謙遜な人になりましょう

「柔和で謙遜な人々とは、よく教えを聞く人々であるとわたしは思います。このような人々は、進んで学ぼうとします。生活の中で導きを得るため、進んで静かな細い声のささやきを聞こうとします。主の知恵を自分の知恵よりも尊ぶ人々です。」——ゴードン・B・ヒンクレー大管長

日常生活では、周りにたくさんの誘惑があります。そこで、わたしは耐えられなくなったらいつでも、声を出さずに心の中で賛美歌を歌ったり、心から天のお父様に祈って助けを求めたりします。こうすると、悪い思いや考えがなくなります。天のお父様がわたし

を愛してくださっているのを知っています。わたしが謙遜であるかぎり、天のお父様は祈りを聞いて、様々な苦難に打ち勝てるように助けてくださいます。

何かがうまくできたとき、高慢にならないようにすることが難しいときがあります。成功を自分自身の努力によって得たと考えてしまうからです。しかし、そんなふうを考えていると必ず、いつの間にか何一つうまくいかなくなっています。わたしが得た成功が自分の功績によってではなく、神が助けてくださっているためだと、後になって分かるのです。わたしはこのような経験から、またヒンクレー大管長の話から、謙遜でなければならないことを学びました。

タイワンタオコウ
台湾桃園ステーキ、
桃園第2ワード
スーウエイ
徐 維佑、16歳

よく祈る人になりましょう

「主とお話ができるふさわしさを保てるような生活をしてください。……祈りの驚くべき点は、主がそれを聞いてくださるということです。主が祈りにこたえてくださるのです。主が返事を下さるのです。いつもわたしたちが願うような答えではないかもしれませんが、わたしの心には、主がこたえてくださるということにいささかの疑いもありません。」——ゴードン・B・ヒンクレー大管長

わたしはひざまずいて祈ることによって心に慰めを得て、天のお父様からのあふれるばかりの愛を感じる事ができるようになりました。最近の祈りを通して得た経験から、天のお父様が祈りにこたえてくださるということを確かに知ることができました。

わたしはとても苦しい日々を過ごし

ていました。学校から帰宅すると、すぐにひざまずいて、自分が愛されていることが分かるように天のお父様をお願いしました。「アーメン」と言った途端、姉が部屋に入って来て、わたしのことを愛していると言ってくれました。わたしは御霊に圧倒されました。そしてこの経験は、わたしの祈りに対する証を確かに強めてくれました。わたしは毎日祈っています。また、絶えず心の中で祈るようにしています。□

ユタ州ハイランド東ステーキ、
ハイランド第20ワード
シャノン・ワトソン、17歳

よく祈る人になりましょう



最低, 最悪の日

ストレス, 不安, プレッシャー

どうやって対処すれば
いいのでしょうか

ブレンダ・ウィリアムズ

わたしはベッドの端に腰かけ、翌日の試験のために勉強しようと、分厚い生物の教科書をひざに置きました。細胞呼吸についての難しい章のページをゆっくりとめくり、集中しようとしたのですが、悔しさが込み上げてくるだけでした。

目が涙でいっぱいになりました。わたしはその晩、劇のオーディションでひどい失敗をしたばかりだったので。高校の演劇部のオーディションに初めて挑戦しました。踊り、演技、歌に関して、まったくの素人でしたが、友達に勧められて難関のミュージカルオーディションを受けました。これまでの審査は、あまりうまくいきませんでした。踊りと歌の審査は、ぱっとしなかったと思います。でも、今夜は最終審査の日で、審査が行われるのは、最も自信のある分野でした。演劇部のディレクターと審査員の厳しい目の前で、こっけいな独り芝居を台本を見ずに演じるのです。何日も前から独り芝居の準備をしました。台本を書き、入念に覚え、眠っていても演じられるくらいになっていました。しかし当日学校に着くと、頭の中が混乱していました。緊張しているうえ、翌日に控えている二つの難しい試験の準備で疲れていたのです。試験の方も心配でした。十分に暗記していたはずのセリフを思い出そうとしましたが、出て来る言葉は途切れ途切れで、自信をもって演じることができませんでした。

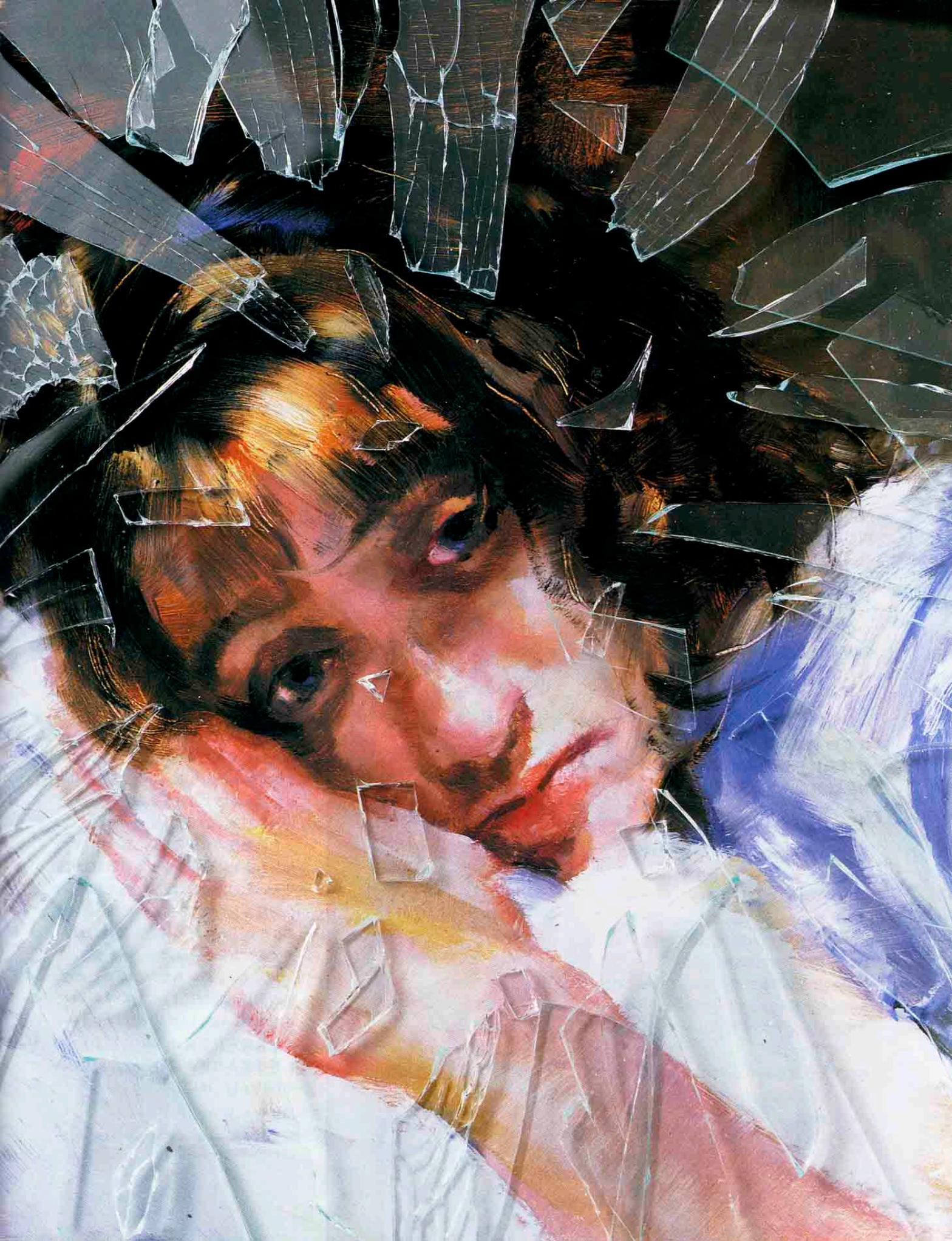
そんなふうだったので、家に帰ってからも、涙がとめどなく唇をぬらし、声を立てまいとこらえながら、すすり泣きました。この数週間、何もかもがうまくいって

ないように思えました。いちばん仲の良い友人の一人は冷たく、よそよそしい態度を執っています。厳しいスケジュールのため、ストレスもたまっています。大学に願書を提出するべきかどうかについても、ずっと頭を悩ませてきました。そして今、オーディションで恥をかいてしまい、勉強はおろか、眠ることも不可能に思えました。わたしは生物の教科書を閉じ、床に置きました。顔を枕にうずめて、思いっきり泣きました。

部屋の扉が開き、母の心配そうな声が聞こえました。「祝福してもらおう？」わたしは顔を上げ、母を追い返したい気持ちに駆られました。真っ赤にはれたわたしの顔は涙にぬれ、枕の縫い目の跡が付いていました。体を起こして戸口にいる両親を見たとき、自分が最も必要としているのは神権の祝福であることに気づきました。わたしは無言でうなずいた後、鼻をすすりながら立ち上がり、両親の後について、廊下の向かいにある二人の寝室へ行きました。

神権についての証は前からありました。開拓者が授けた祝福についても聞いていました。また現代においても、火事で負傷した人たちや意識不明の子ども、助かる見込みのない人々に与えられた祝福についても耳にしていました。わたしは2年前に祝福師の祝福を受けており、祝福文が真実であることや、その中にわたし個人への愛が込められていることについて理解していたつもりです。

しかしその晩、父がわたしの頭に手



を置いたとき、神権に対するわたしの証は強められました。父の語る言葉や優しい手の重みの中に神の力を感じました。祝福を通して、わたしのつまらない願望は消え、最も必要としている言葉が授けられました。父が祝福を結び固める言葉を述べたとき、その言葉に込められた力に胸が高鳴り、簡潔な癒しの言葉が父自身から出たものではないことが分かりました。父は自分の語った言葉を思い出せませんでした。わたしは覚えていました。そして、心に絡みついていた不安と恐れは解き放たれ、心地よい平安を感じました。

わたしはほほえみながら、靈感に満ちた提案をしてくれたことを母に感謝しました。そして、振り返って父に抱きついたとき、父の腕の暖かさの中に、だれよりもわたしを見守り、助けてくださる天のお父様と御子の愛を感じました。わたしに授けられた祝福の、穏やかなそれでいて力強い慰めの言葉にとっても感謝しました。

その夜、わたしは悩みから解放され、神に愛されている娘としての自分の将来に確信を持ちながら、数週間ぶりに熟睡しました。□

ブレンダ・ウィリアムズはブリガム・ヤング大学第12ステーク、BYU第47ワードの会員です。



「主に すべてを ゆだねる」

「この世においてわたしたちは皆、様々な形で苦痛を経験します。……孤独感や失意による苦痛を味わうことでしょう。神の戒めに対する不従順によってもしばしば苦痛を味わいますが、救い主の模範に従って生活するために全力を尽くしている人々にも苦痛はもたらされます。……

オーソン・F・ホイットニー長老はこのように記しています。『わたしたちが味わう苦痛、わたしたちが経験する試練は無駄になることはありません。それにより、わたしたちは忍耐、信仰、不屈の精神、謙遜などの資質を伸ばすことを学びます。わたしたちが受けるすべての苦しみ、特に根気よく堪え忍ぶすべての事柄は、わたしたちの人格を築き上げ、心を清め、霊を大きくし、わたしたちを優しく慈愛に満ちた人物へと変え、神の子らと呼ばれるにふさわしくしてくれます。……わたしたちがここへ来て身に付ける教育は悲しみと苦しみ、苦勞と苦難を経験して得るのです。』(Improvement Era, 1966年3月号, 211で引用)……

主は究極の介護者であられます。わたしたちは主に身をゆだねなければなりません。そのためには苦痛をもたらしものを皆捨て、すべてを主にゆだねる必要があります。『あなたの荷を主にゆだねよ。主はあなたをささえられる。』(詩篇55:22)『そのときに、神があなたがたのために、神の御子の喜びによって重荷を軽くしてくださるように。』(アルマ33:23)——十二使徒定員会会員、ロバート・D・ヘイルズ(「霊と肉体の癒し『リアホナ』1999年1月号, 17-18)□

「リアホナ」の25ページは、「チャーチ・ニュース」および「フレンド」の後に続きます。

ヒンクレー大管長、モンテレーとルボックの神殿を奉献する

チャーチ・ニュース



テキサス州ルボック神殿の奉献式に出席するために並び教会員。
新しい神殿はすでに、教会に関する地元の人々の誤解を解いた、とジェイ・B・ジェンセン神殿長は語っている。
写真/グレッグ・ヒル、『チャーチニュース』の厚意により掲載。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、4月に二つの神殿を奉献した。一つは合衆国内の神殿で、もう一つはメキシコの神殿である。これにより、儀式が執行されている神殿は全部で110となった。

テキサス州ルボック神殿

4月21日、合衆国のテキサス州ルボック神殿が奉献され、4回の奉献セッションが行われた。ヒンクレー大管長は奉献の祈りの中で次のように述べた。「わたしたちの愛するお父様、この神殿を奉献するに当たり、わたしたちはあなたの偉大な王国で働くように召された者として、さらに忠実にあなたに仕えることができるように自らをささげます。この地域、この州、この国にあなたの祝福が注がれますように。この選ばれた国を祝福してください。そして恒久の自由が守られ、平和と自由が人々の生活を祝福し、正義によって国が治められるようにお祈りいたします。」

奉献式には、十二使徒定員会会員のジョセフ・B・ワースリン長老、七十人で北アメリカ南西地域会長会会長のF・バートン・ハワード長老がヒンクレー大管長と同席した。

ルボック神殿の奉献式は、テキサス州ルボック伝道部の設立が発表されたすぐ後に行われた。ジェイ・B・ジェンセン神殿長はこのように述べている。「神殿が奉献されれば、この地域の人々は以前よりもっと心を開いて教会について学ぼうと思えます。約2万1,000人が神殿のオープンハウスに出席し、多くの人が帰り際にこう言っています。『この教会の人たちはクリスチャンではないと教えられてきましたが、それは正しくないとい分りました。』」

ルボック神殿は、1984年に奉献されたダラス神殿と2000年に奉献されたヒューストン神殿に次いで、テキサス州に建てられた3番目の神殿である。中央幹部は、テキサス州サンアントニオにも神殿を

建てる計画があると発表した。約4,130人の会員がルボック神殿の奉献式に出席した。

メキシコ、モンテレー神殿

4月28日、ヒンクレー大管長により、メキシコで12番目の神殿となるモンテレー神殿が奉献され、奉献セッションが4回行われた。この神殿は、ヒンクレー大管長が奉献または再奉献した75番目の神殿となる。

ヒンクレー大管長は奉献の祈りの中で次のように述べた。「あなたの福音が永遠に真実であることを教えるために、この偉大な国で働いてきた多くの宣教師へ感謝の意を表します。彼らは非常に献身的に奉仕したため、今日、あなたの無数の息子娘たちがバプテスマの水に入り、それ以後、あなたの御前に信仰深く生活しています。

わたしたちはこの国の各地にある多くの神殿に感謝しています。……これらの神聖な宮で推し進められている業は驚くべきものです。そして今、すでに

建設された多くの神殿に、この美しい建物が加わりました。」

奉献式には十二使徒定員会会員ヘンリー・B・アイリング長老、メキシコ北地域会長会から七十人のリン・A・ミケルセン長老とゲーリー・J・コールマン長老、地域幹部七十人のエイドリアン・オウチョウア長老がヒンクレー大管長と同席した。

モンテレー神殿は、地元の多くの末日聖徒たちの夢と希望の実現であると、メキシコ・モンテレーローマステーク、コントリーワードのアルファ・カサノバ姉妹は語っている。

何年も前に、合衆国のアリゾナ州メサにある当時いちばん近くの神殿まで25時間かけて行ったカサノバ姉妹は、こう述べている。「わたしたちはこの日を長い間待っていました。これで、とても



メキシコ・モンテレー神殿の奉献式に集う大勢の人々。教会員と神殿の数で合衆国に次ぐメキシコは、12番目の神殿をモンテレーで奉献した。

写真/ジェイソン・スウェンセン、「チャーチニュース」の厚意により掲載。

長い間望んでいた救いの儀式を行うために、度々神殿に来ることができます。」

4月3日から20日まで行われた神殿のオープンハウスには、4万人以上もの人々が訪れた。その中には、ビジネス界や政府、市の要人をはじめ、ほかの宗教団体の役員などもある。神殿の奉献式には1万2,600人を越える会員が出席した。□

ヒンクレー大管長、メキシコの大統領と会見

モンテレー神殿奉献のためにメキシコ滞在中、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、4月29日、メキシコシティの大統領官邸で、ビセンテ・フォックスメキシコ大統領と会見した。

ヒンクレー大管長は、メキシコシティの大統領官邸で、フォックス大統領と会見した。二人は、メキシコの人々の生活に祝福をもたらしている教会の努力について話した。

写真/大統領事務局の厚意により掲載。

会見中、ヒンクレー大管長はこのように述べた。「人々を貧困から救い出すことは、現在世界が直面している大きな課題の一つです。人は教育を受けると、自らを救い出せるようになります。」

ヒンクレー大管長は、教会員であるなしにかかわらず、メキシコの人々を支援する教会の努力について説明した。大管長が教会の永代教育基金について話すと、フォックス大統領は関心を示した。さらに二人は、モンテレーの工業大学で提供されてい

る、教会が資金援助する溶接訓練プログラムについて話した。

会見中、ヒンクレー大管長は、恵まれない子どもたちのための慈善団体パモス・メキシコへの教会人道的援助基金からの寄付をフォックス大統領に手渡した。パモス・メキシコは、メキシコのファーストレディー、マルタ・サーゲン・デ・フォックス大統領夫人が支援する組織である。フォックス大統領は夫人に代わり感謝して寄付を受け取り、夫人の慈善活動にとって非常に役立つと述べた。

最後にヒンクレー大管長は、伝道やその他の教会活動を自由に行えるように認めてくれたメキシコ政府の厚意に感謝した。それに対し、フォックス大統領は、こう答えた。「どういたしまして、わたしたちはすべての教会を全面的に受け入れることの重要性を確信しています。」

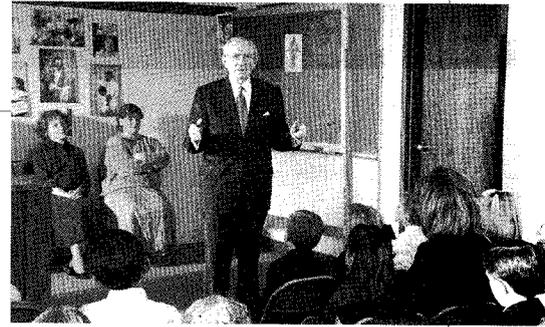
会見にはヒンクレー大管長とともに、



十二使徒定員会会員ヘンリー・B・アイリング長老、七十人でメキシコ南地域会長会長のリチャード・H・ウィンケル長老、地域幹部七十人のベンジャミン・

デ・ホヨス長老、ジェフリー・デイビドウ在メキシコ合衆国大使、メキシコのハーベア・モークテイスマー・バラガン宗教関係担当大臣、メキシコ上院議員を

務める末日聖徒が同席した。□



ビデオのこの場面で、ヒンクレー大管長は子どものころに福音に従って生活した自らの経験を子どもたちに伝えている。このビデオは、初等協会の分かち合いの時間で用いるよう制作されたが、家庭で用いることもできる。

ビデオを入手するには、教会管理本部配送センターに問い合わせるか、www.ldscatalog.comから申し込む。ビデオは以下の言語で入手可能である。広東語、セブアノ語、デンマーク語、オランダ語、英語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ハンガリー語、インドネシア語、イタリア語、日本語、韓国語、北京語、ノルウェー語、ポルトガル語、ロシア語、サモア語、スペイン語、スウェーデン語、タガログ語、タヒチ語、タイ語、トンガ語。□

ヒンクレー大管長、新しいビデオで子どもたちに語りかける

ゴードン・B・ヒンクレー大管長に、全世界の初等協会を訪問してもらえたら。そんな夢が今度新しくできた『ゴードン・B・ヒンクレー大管長との分かち合いの時間』というビデオで実現することになった。

「近年、ヒンクレー大管長は教会の若人や母親、父親を対象として特別な話をしました。今回、ヒンクレー大管長はこのビデオを使って教会の子どもたちに語りかけるという方法を取りました」と中央初等協会第二副会長のゲール・M・クレグ姉妹は述べている。

この8分のビデオは、ヒンクレー大管長があるワードで初等協会の分かち合いの時間を教えるという設定になっている。教会の大管長が福音の原則を学び実践した幼いころの経験を子どもたちに話している。自分の一、神殿、教会員であることからもたらされる祝福、そ

して永遠の家族といったテーマで話が進む。ヒンクレー大管長が自らの経験を話すところでは、ヒンクレー大管長の子ども時代の写真も映し出される。ビデオはヒンクレー大管長の証と教会の子どもたちに対する祝福で終わる。

このビデオは、分かち合いの時間、レッスン、「達成の日」を含む初等協会のいろいろな場面で用いることができるように、全世界のワード、支部にそれぞれ1本ずつ郵送される予定である。「『ゴードン・B・ヒンクレー大管長との分かち合いの時間』(アイテム番号53331 300)は家庭用として購入することもできます」と中央初等協会会長のコリーン・K・メンラブ姉妹は語っている。「このビデオは初等協会以外でも用いることができます。両親はこのビデオを使えば、自宅でヒンクレー大管長に自分たちの子どもを教えてもらうことができます。」

ヒンクレー大管長、名誉博士号を授与される

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、クリスチャンとしてのこれまでの奉仕と指導に対して、ブリガム・ヤング大学アイダホ校で最初の学位を贈られた。

ヒンクレー大管長は、最近リックス大学をブリガム・ヤング大学アイダホ校へと移行するに当たって貢献した。4月27日、この新たに創設された教会所有の4年制大学から約2,500人の学生が学位を授与されるに先立ち、大管長は名誉博士の学位を授与された。

「リックス大学からブリガム・ヤング大学アイダホ校への移行が進む中で、ヒンクレー大管長に荣誉が与えられる特別な理由があります」とクリスチャンとしての奉仕と指導に対して名誉博士号を贈るブリガム・ヤング大学アイダホ校学長デビッド・A・ベドナーは語った。地域

幹部七十人としても働いているベドナー学長は、ヒンクレー大管長に関して、次のように語った。「ヒンクレー大管長の教育に関するビジョンは、この新たに設立された4年制大学の方向性と、そこに通う一人一人の学生の生活に、大きな影響を与えました。」

学位授与式での講話の中でヒンクレー大管長は、教会教育管理会は教会がスポンサーとなっている大学に通う若人の割合が減少し続けているという事実に関心を持ってきたと語った。

「この事実について深く考えているときに、ある考えが思い浮かびました。もしリックス大学が4年制大学となり、学士号を提供することができるようになれば、より高度の教育に対して心を動かされる若人の数が増えるに違いない、と

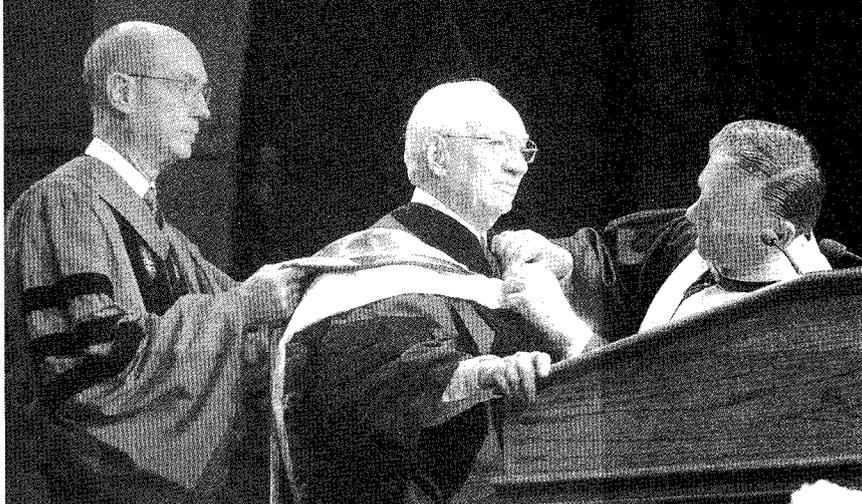
いう考えでした。わたしはそれが靈感であったと確信しています」とヒンクレー大管長は語った。

3年生と4年生を対象とした授業が行われたのは今年が最初であり、インテリアデザインを専攻する28人の学生が学士号を初めて取得した。ほかの卒業生は準学士号を取得した。卒業生のうち、56人は国外からの学生である。

説教の中で、ヒンクレー大管長は卒業生に次のように語った。「信仰を持ち続けてください。これがわたしから皆さんへのメッセージです。……今朝、皆さんに心からお願ひしたいのは、生涯を通じて自分自身、自分の仲間、教会、そして永遠の父なる神に対する信仰をはぐくみ、その信仰を実践していただきたいということです。」

ヒンクレー大管長はさらに続けて次のように語った。「皆さんは失敗するためには生まれてきたのではありません。成功するために生まれてきたのです。皆さんは今までに多くのことを達成してきました。しかし、それは始まりにすぎません。人生行路を進んで行く中で、いつも信仰の原則に従った生活を送ってください。皆さんは天才ではないかもしれませんが、ずば抜けて賢いということはないかもしれませんが、しかし善良な人間となり、努力することはできます。そして、信仰をもって一步前に進むときに起こる出来事に皆さんは驚くことでしょう。」

ヒンクレー大管長は次のような言葉で説教を締めくくった。「自分自身に対する信仰を決して失わないでください。善なること、価値あることを行う自分の能



十二使徒定員会会員のヘンリー・B・アイリング長老とプリガム・ヤング大学アイダホ校副学部長のドナルド・バード兄弟は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長に名誉博士号を贈った。この博士号学位はプリガム・ヤング大学アイダホ校から授与される最初の学位となった。
写真/マイケル・ルイス、プリガム・ヤング大学アイダホ校の厚意により掲載。

力に対して決して信仰を失わないでください。尊大になってはいけません。うぬぼれるようなことがあってもなりま

せん。静かで、謙遜で、前向きな人間、信仰へと開花する希望にあふれる人間になってください。」□

モンソン副管長、名誉スカウト大章を授与される

「スカウトの精神は今も健在です。」大管長会のトーマス・S・モンソン第一副管長は4月、集った1000人のイーグルスカウトとその両親、そしてスカウトリーダーに向けて話をした。

グレートソルトトレイク議会はその集会で、モンソン副管長を「傑出したスカウト、

教会指導者と新しいイーグルスカウトをたたえる式で、スカウトの一人とあいさつするトーマス・S・モンソン副管長。モンソン副管長はイーグルスカウトたちに、奉仕する責任を喚起した。
写真/トム・スマート、Deseret Newsの厚意により掲載。

また若人のチャンピオン」としてたたえ、今年度のアメリカ・チャンピオン章を授与した。モンソン副管長は1969年以来、ボーイスカウトアメリカ連盟の一員として働いてきた。これまで、スカウトのシルバー・ビーバー章、シルバー・バッファロー章、国際スカウトの最高位の章である、ブロンズ・ウルフ章を受章している。

この章は、新しくイーグルスカウトを受章した人をたたえる年次朝食会でモンソン副管長に授与された。この式典はユタ州サンディで開かれた。

モンソン副管長は受章スピーチの中でこう語った。「ここに集うイーグルスカウトたちの心の中には記念碑が見えます。それは忍耐、堅忍、励まし、そして達成の証です。」

モンソン副管長はイーグルスカウトたちを「真のチャンピオン」と呼び、次のように語った。「真心から与えてください。自分自身をささげるのです。そうするとき、皆さんは神にささげ物をします。」

モンソン副管長は、彼らを教え導いてきた、スカウトマスターたちの努力をほめたたえ、また、イーグルスカウトたちに、奉仕への決意はまだ始まったばかりであると話した。「皆さんはイーグルズネスト(訳注—鷲の巣の意味。合衆国のスカウトの集会で、イーグルスカウトはイーグルズネストと呼ばれる場所に着席するように案内される。)にたどり着きました。しかし、そこにとどまり、人のために何もしなければ、イーグルスカウトとしての決意を果たすことはできません」と語った。「皆さんは人々の生活にかかわらなければなりません。少年の手を取り、道を示してあげなければなりません。彼がよろめくときは、傍らにあってしっかりと立つように助けなければなりません。それは彼もまた、その人生の中で立派にイーグルズネストにたどり着き、ほかの人々に奉仕できるようにするためです。」□



バラード姉妹、模範的な女性としてたたえられる

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老の妻であるバーバラ・ポーエン・バラード姉妹は、3月28日、ブリガム・ヤング大学アイダホ校において、同校の年次母親週間の閉会に当たり、今年の模範的な女性に選ばれた。

ブリガム・ヤング大学、アイダホ校の学長であり、地域幹部七十人のデビッド・A・ベドナー長老は、賞を授与するに当たって、家族や教会の召しに対するバラード姉妹の献身を高く評価した。

バラード姉妹はジェームズ・ポーエンとアフトン・ポーエン夫妻の娘としてソルトレーク・シティーで生まれた。バラード姉妹はクラスの総代としてサウス高校を卒業した。そしてユタ大学在学中に将来の夫となるバラード長老と出会った。

バラード姉妹はスピーチの中で、母親週間のテーマである「聖なる場所に立つ」について話し、女性は標準を守り、思いやりを示すことによって、すべての家庭を聖なる場所とすることができると語った。そして女性たちに良い選びをし、才能を伸ばすようにと励ました。

バラード長老は夕べの集いを閉じるに当たり、自分の成功が姉妹によるものであることを述べ、姉妹に対する深い愛情を表した。

バラード長老夫妻は結婚して50年になり、7人の子どもと41人の孫、そして4人の曾孫に恵まれている。バラード姉妹は初等協会や若い女性、そして扶助協会で教え、召しを果たしてきた。□

Church News, 2002年4月6日付けの記事を基に編集。



M・ラッセル・バラード長老の妻、バーバラ・バラード姉妹、ブリガム・ヤング大学、アイダホ校より今年の模範的な女性として選ばれる。

地域社会を強める

女性の大会において、何千もの人道支援キットが準備される

ブリガム・ヤング大学で毎年開かれる女性の大会の一環として、5月3日、扶助協会の姉妹たちが大規模な奉仕活動を行った。

何千人という女性たちが作業の列を作り、世界中の人々に送り届けるための衛生用品キット、学用品パッケージ、またフリース素材の帽子や上着を作成した。全体で6万7,000個の衛生用品キットと1万5,000個の学用品キットが集められた。

大会に出席した元国連副事務総長であるウォーリー・エンダウ博士は、女性たちの尽力に驚嘆した。

「わたしは、大会を見るためにここにきましたが、このようなヒューマンドラマを目にするとはいってもしませんでした。」とエンダウ博士は語った。エンダウ博士は、末日聖徒と、彼らが異なった信仰や国籍の人々にも助けの手を差し伸べようとしていることに感銘を受けたと話した。

「援助を必要としている人々を助けるために集い、実際に行動している皆さん

の行いは、世界が取るべき行動の基本となるものです。」とエンダウ博士は語った。

人道的支援部門のデーン・ウォーカー



BYUで開かれた「女性の大会」に出席した数千人の女性は、衛生用品キットや学用品キットを作っていた。出来上がった約10万キットは、末日聖徒人道支援部門を通して寄付された。

写真/スティーブン・ウォルターズ

は、すべてのキットは数か月のうちに、「あるいは災害や必要に応じてはもっと早く、人々のも手に届けられるでしょう」と語った。

ウォーカー兄弟はまた、このようなキットの必要性が高まっていることについて触れ、「ブリガム・ヤング大学の女性の大会における、これらの女性たちの尽力なしには、現在の必要を満たすことは難しい」と説明した。

学用品パッケージや帽子、また上着の材料は、幾つかの主要な企業から教会人道支援部門に寄付された。

メリーランド州の竜巻に対応する教会

合衆国メリーランド州ラプラタを襲ったF5クラスの巨大竜巻は、町の大部分を破壊した。が、住民の希望までは碎けなかった。(訳注——竜巻の強さは風速によって F0 から F5 の6クラスに分類されている。F5クラスの竜巻の風速は、秒速にすると116-141メートルで、家々を空に巻き上げ、自動車を100メートルくらい飛ばす力を持つ。)

教会はラプラタに、災害用品、食糧、

メリーランド州で竜巻の通り過ぎた後を清掃する教会員。
会員は、竜巻の被害者に時間と労力と食糧をささげた。



中央扶助協会 および 第172回半期総大会

以下の情報は、今後の教会内の放送予定を知らせるものである。

それぞれの地域での中継放送、およびビデオ放送の時間と場所については、地元の教会指導者に確認する。また、www.lds.orgにアクセスすることによって、中継放送や過去の放送分をインターネット上で視聴することができる。

中央扶助協会集会

日付：2002年9月28日

時間：午後6時*

第172回半期総大会

日付：2002年10月5日-6日

時間：土曜午前の部会：午前10時

土曜午後の部会：午後2時

神権部会：午後6時

日曜午前の部会：午前10時

日曜午後の部会：午後2時

*以上に記された時間はすべて、合衆国山間夏時間である。

言語——中央扶助協会集会は35の言語で視聴することができる。総大会は52の言語に訳され、10月の大会ではさらに数か国語が加わることが予想される。自国の言語で視聴できるかどうかは、地元の指導者に確認する。□

建築資材を提供した。さらに、竜巻で建物を破壊された現地の3つの宗教団体に、集会所を開放した。現地の私立校に通う児童生徒は、夏休みが始まる6月まで、末日聖徒の集会所で勉強を続けることになった。

宣教師と会員は、膨大な清掃作業に協力した。残骸の撤去を手伝い、ボランティアと被害者への食事を準備した。また救済事務所に送られてくる多くの物資の仕分け作業も手伝った。

竜巻が発生したのは4月28日であった。合衆国東部を襲った竜巻の被害規模としては、史上2番目である。残したつめ跡は、死者5名、被害家屋738棟、倒壊した会社49社。末日聖徒の3家族が資産を失った。

Church News, 2002年5月11日付けの記事を基に編集。

墓地を清掃する宣教師

サモア・アピア伝道部の宣教師たちが、同伝道本部から約7マイル(11キロ)に位置するファガリイ墓地を初めて見たときのことである。宣教師たちは、この墓地を何とかしなくてはいけないと思った。すぐに彼らは毎月雑草を除去し、木を剪定し、フェンスを作るようになった。

「掃除すればするほど、きれいになっていきました」と言うのは、スアウバイア・ベア伝道部長夫人の、タラロア・ベア姉妹である。

墓地には、近隣のファガリイ村の村人らの墓に交じって、教会の初期の宣

教師の墓がある。

「宣教師全員によるこの働きをうれしく思います。この働きによって、彼らはサモアの人々に感謝を示したのです」とベア姉妹は語った。

Church News, 2002年4月20日付けの記事を基に編集。

イタリアの国営放送局、 初等協会についての特集を放送

RAI(イタリア国営ネットワーク)は最近、「子どもたちを守ろう」(Let's Protect Our Children)という番組を放送し、教会と初等協会を特集した。4月11日に放送されたこの特集は、現在放送中のシリーズ番組「それに関して10分間」(Ten Minutes Of)の一部として制作された。

セルジオ・バルファルティ(イタリア、ミラノステーキの会長、小児科医であり、4児の父である)と、エマニュエル・デ・マテイス(初等協会の教師)、ギウセッペ・パスタ(教会のイタリアにおける国内広報ディレクター)が、RAIの司会者、カルロ・フォンターナからの質問に答えた。

話し合いのテーマは、幼児虐待と闘うことについてなどであった。教会の初等協会は子どもを守る一手段として紹介された。番組中、出演者が教会の教えについて説明した。

番組はイタリア国内全土と海外に放送された。

Church News, 2002年4月27日付けの記事を基に編集。

家庭貯蔵、ブラジルで特集される

ブラジル国営テレビ番組「それは、あなた次第です」(It's Up to You)のリポーター陣は、教会員に対して、家庭貯蔵プロジェクトに関するインタビューを行った。この番組は4月30日に放送された。

番組では、小麦の貯蔵プロジェクトに参加した50人以上の会員とその友人が扱われた。プロジェクトに参加した人々は、もっと多くの食糧貯蔵をぜひ始めたいと語った。

Church Newsの厚意により、2002年3月11日付けの記事から掲載。

城の新しい看板, 訪問者を招く

ガーナのケープコーストの教会の指導者は4月23日、ケープコースト城入り口に設置する看板を、ガーナ博物館・記念建造物理事会のレーモンド・アグボ氏に寄贈した。

この新しい看板を寄贈する計画は、昨年5月に始まった。ブリガム・ヤング大学シンガーズが城内で公演したのがきっかけである。その地域の歴史を学んだ学生たちは、公演を主催してくれたアフリカの人々のために何かしたいという気持ちを募らせた。そこでアグボ理事長は、観光客の増加を図るために、城の入り口付近にもっと魅力的な看板が必要であると伝えた。

新しい看板のデザインは、学生たちと教会のアフリカ西地域広報評議会の協力でまとめられた。そしてトーマス・K・アッピア(ガーナ、ケープコーストステークの会長)とジョセフ・セフェヌ(ケープコースト広報ディレクター)が贈呈した。*Church News*, 2002年5月11日付けの記事を基に編集。

孤児院長とのきずなを強めた宣教師

夫のリチャードとともにインドネシアで人道奉仕宣教師として働いているノーマ・スミス姉妹は、先ごろ、地元の2か所の孤児院を訪問した。その後、一方の孤児院の院長から電話を受け



ガーナのケープコースト城には、新しい看板が掲げられている。地元の教会員とブリガム・ヤング大学シンガーズの協力の結果である。城の理事長は、この看板によって訪問者が増えることを希望している。

た。この院長はまず、宣教師がキリスト教徒であることを確認し、末日聖徒の慈善事業についていろいろと尋ねた。それから彼女はこう質問した。「どうしてイスラム教徒の孤児院にいらっしゃるのですか。(インドネシアで)キリスト教の教会を爆破したわたしたちを憎んではいないのですか。」

スミス姉妹はそのときのことを語った。「あなたがその教会を爆破したっていうわけではないんでしょって言ったんです。そして、子どもたちに対するすばらしい働きにととても感謝していますと伝えました。

すると院長はこう言いました。「でもどうしてですか。キリスト教徒が助けの手を差し伸べてくれたことなど、今までなかったんですよ。」わたしは、こう答えました。「わたしたちの教会は、すべての人を助けることを信条としているんです。相手の宗教を気にしないでね。」

そうすると、彼女は何度も何度もお礼を言いました。そしてこう言ったのです。「スミスさん、わたしをあなたの生涯の友にさせていただきませんか。」

スミス姉妹はこの経験について次のように語った。「こんなにすばらしい人生はありません!」□

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年9月

 以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2002年9月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」4、5ページ「はたけはすでに白くなり入り入れをまっている」を参照する。

1. 科学的法則には、予測できる結果が伴う。例えば、物を落とせば、必ず地面に落ちる。重力の法則が働くからである。霊的な律法にも、予測できる結果が伴うことを説明する。例えば、主の戒

めに従えば、祝福を受ける。子どもたちは、教義と聖約130:20-21を開き、斉唱する(『教師、その大いなる召し』163参照)。各クラスは、『わたしの福音の標準』(『リアホナ』『フレンド』1999年4月号、8-9参照)から一つの標準を選ぶ。教師とともに、今標準に従って受けている祝福について話し合う。話し合った祝福について、ほかの子どもたちに報告する。各標準に関する歌か賛美歌を歌う。子どもたちは、これからの1週間努力したい標準の一つを書く。または、その絵を描く。

2. 伝道に関する歌か賛美歌を歌う。

会員として今できる伝道活動や、専任宣教師になる準備として今できることを、子どもたちと話し合う。子どもたちを4つのグループに分ける。島(『教師—その大いなる召し』178-179参照)という教授法を用いる。子どもたちは各々の島で宣教師としての技術を学ぶ。島1のテーマ、「専任宣教師は福音のレッスンを暗記します。」子どもたちは、信仰簡条からどれか1条を暗記する。グループの中で暗唱する。年長の子どもと年少の子どもでペアになって暗唱してもよい。島2のテーマ、「宣教師はモルモン書を読みます。」子ども一人一人は、モ

ルモン書の好きな物語を選ぶ。教師の助けを借りて、聖文のどこにその物語があるか見つけ、グループの中でその物語を話す。鳥3のテーマ、「宣教師はお話をします。」子どもたちは、教師の助けを借りて、以下の4段階を踏んで、話の練習をする。(1) 聖句を選ぶ。(2) 聖句の意味を話す。(3) 要点に添った個人的経験か聖典からの物語を話す。(4) その証をする。必要であれば、指導者は以下の例を話す。「1ニーファイ3:7の意味はこうです。主から言われたことは何でもします。主が助けてくださるからです。ある日曜日に、誕生日パーティーに招待されました。でも、主は安息日を聖く保ってほしいと思っておられます。だから行きませんでした。主に従ったので、よい気持ちになりました。主の戒めは、守りにくいときもあります。でも、守るときに祝福を受けます。」初等協会で話をするときにこの4段階を踏むように提案する。そうすれば、将来宣教師として話をするときの準備になると教える。鳥4の

テーマ、「宣教師は時々、音楽の指揮をします。」子どもたちは、音楽指導者の助けを借りて、指揮の方法を学ぶ。音楽指導者に手本を示してもらい、動きをまねる。簡単な歌か賛美歌を何曲か歌い、練習する。

3. 今年学んだ神殿の歌と神殿の教えを復習する。子どもたちは、床の上に大きな輪になって座る。輪の内側に、各月のテーマを表した写真(または絵)を均等に並べる。1月は近隣の神殿の写真(「神殿に行きたいな」)、2月は家族の写真(「わたしの家族は神殿の祝福によって永遠に結ばれます」)など。各写真に合うように、聖句と歌のリストを準備する。聖句は各月に提案された聖句から、歌は各月に提案された歌、または写真が教えている概念にちなんだほかの歌か賛美歌から選ぶ(「分かち合いの時間、ならびに聖餐会での子供の発表の概要2002年度」参照)。黒板に、簡単なゲーム盤を描く。ゴールに神殿の写真掲げる。1枚の子どもの写真(または絵)を

コマとして用いる。瓶を床の上に寝かせる。一人の子どもがその瓶を回す。止まったら、瓶が指している方向に座っている子どもが、コマが進むマス目の数を決める。例えば3マス進めたいとする。子どもは、瓶が指している方向にある(または方向がいちばん近い)月の歌のリストから1曲歌う。2マス進めたいとする。子どもは、瓶が指している方向にある(または方向がいちばん近い)月の聖句のリストから一つ、聖典から見つけて読む。1マス進めたいとする。子どもは、神殿参入に備えるためにできることを言う(バプテスマを受ける、預言者に従う、安息日を守る、什分の一を納める、正直になる、よい友達を見つける、福音を分かち合う、神権指導者を尊ぶ)。コマがゴールの神殿に到達するまで続ける。子どもたち全員への愛を伝える。そして、子どもたちが神殿の祝福を受けられるような生活を送るよう望んでいることを伝える。□

●ローカル・ニュース



スカウトたちに 宣言された 福音のメッセージ

～第13回アジア太平洋スカウトジャンボリー
末日聖徒の宗教儀礼に多くの若者が参加～

教儀礼が行われ、内容は各宗派に一任された。会場内・会場外2つの場所で同時進行するプログラムは、奉仕に携わった教会員たちにとっても初めての経験であった。

末日聖徒の会場外宗教儀礼としては、堺ステーク堺ワードにて福音のメッセージをスカウトたちに紹介するオープンハウスが計画された。会場内にとどまるスカウトたちにも信仰、奉仕、友情を培うプログラムが準備された。堺ステークから100人を超える人々がボランティアとして参加し、ジャンボリー会場の舞州から堺ワードへは3台の大型



上—ジャンボリー会場内の末日聖徒の宗教儀礼に参加した大勢のスカウトたち。挿入写真/左から—ボランティアとして参加した50人余りの専任宣教師たち、証をするイーグルスカウトの専任宣教師ウッドベリー長老、会場内のオープンハウス。

バスによる5回のピストン輸送が行われた。堺ワードでのオープンハウスでは、4つの部屋に分けて展示された福音のメッセージを各ガイドが証を交えて伝えた。このオープンハウスに参加した人々はボランティアの人々の温かい歓迎と冷たい飲み

物と霊的なメッセージをいっぱい受けて、しばし平安を感じたようだった。また、舞州では5つのコーナー(福音の紹介、開拓者、ユタの地オリンピック、スカウトと教会、宣教師のレッスン)が催され、スカウトたちは静かに聞き入っていた。そして何よ

去る8月3日から7日、大阪舞州において第13回アジア太平洋スカウトジャンボリーが開催された。初の都市型ジャンボリーとしてスカウト1万2,000人、指導者を含めると総勢3万人が集う大規模なイベントとなった。ジャンボリーのプログラムの中で宗教儀礼が行われるのは通常のことである。ただし今回は初の試みとして、午前中はジャンボリー会場内、午後は会場外で宗

りも3メートル近い3体のゴリアテを、石投げ器と石(テニスボール)で倒すゲームが好評で、スカウトたちはこの世の青少年を取り巻く悪(ゴリアテ)に向かって、皆、精一杯挑んでいた。

スカウトの青少年たちがこの宗教儀礼に友達を誘い、多くのボランティアの奉仕と50人余りの宣教師たちの伝道を通して、プログラムはこれまで例を見ないほど教会の広報と伝道に貢献

した。ボーイスカウト連盟のジャンボリーの新聞、またインターネット上では、教会の宗教儀礼の内容が高く評価され、多くの人々の目に留まることとなった。教会と福音のメッセージが

正しく報道されたのは、主の助けなくしてはなし得ないことであった。□

●宗教儀礼の様子は、日本ジャンボリー公式ホームページの「信仰奨励プログラム」の中で紹介されている。
<http://www.13nj.scout.or.jp/>

現在、日本全国で、親が何らかの理由で育てられないために満杯状態の乳児院や児童養護施設に暮らす子どもたちは三万数千人。その一方で、子どもを心から望みながら恵まれない夫婦も増えています。預言者は語っています。「養子縁組は、実の親とその子供の双方にとって現世においても永遠の世においても祝福となる、無私の、愛に満ちた決定です。」(大管長会の手紙、2002年7月19日付け) 今日、養子縁組によって、神様の子どもたちを迎え入れた教会員の家庭とそれらを取り巻く状況をレポートします。

特集

いのち

生命を

はぐく

育む



人々

医 師という職業柄、突然、産まれたら子どもを養子に出したいという話が飛び込んできてことがあります。産む本人とお話すると、事情は様々ですが、とても責める気にはなれません。それ以上に、産まれてくる赤ちゃんを思うとき、ふびんでふびんで、つい何とかしてあげなければと動いてしまいます。——夫婦で特別養子縁組のボランティアを始めて10年が過ぎました。深夜に、早朝に、産着をそろえ、車内を暖め、夫婦でもらい受けにいった赤ちゃんの数は20人を越えました。現在、6組の特別養子縁組の手続きをお手伝いしています。

◆赤ちゃんをもらい受けるにあたっては、覚悟や決意の強さを試すために、手放す側にも、もらう側にも、「ゴメンナサイ」と心の中で言いながら、意図的に酷な質問をいっぱい投げかけなければなりません。それもこれも産まれてくる赤ちゃんが、安心して抱いてもらえる父と母を確保するためです。最後に抱かせて下さいという実母もあり、あまりのつらさに声すら聞かないで、引き取ってくださいとおっしゃる方もあり……。涙を流し喜んで養子を抱く養父母の姿とはあまりに対照的です。

◆育てることのできない親のもとで生まれた子どものほとんどは、児童相談所の手にゆだねられ乳児院に引き取られます。いったん乳児院に入ってしまうと、「障害の有無を確認するため」という理由で2才までは養子に出されず、施設内で過ごすことになってしまいます。彼らは、たとえどんなに手厚い福祉の恩恵を受けるとしても、このもっともスキンシップを必要とする時期に、父母の感触も家庭の雰囲気も知らないで育っていかねばなりません。また、2才を過ぎても「生みの親の意志の確認が取れない」という理由で、実親にも引き取られず、養子にも出されず、乳児院から養護施設へ移され、結局ほとんどの子が18才まで施設で過ごすこととなります。

◆このような子どもたちが多数存在する一方で、不妊治療をくり返してもなお子どもに恵まれず悩んでいる夫婦のなんと多いことでしょう。この両者間の溝を埋めるために何ができるのかと考えて始めたのが、この特別養子縁組のボランティアでした。命を奪われるか、施設へ預けられ、家庭の味も父母の温もりも知らず思春期を過ごすはずだった赤ちゃんが、ほんとうに長いこと子どもを望んでいた家庭で育っていく……。このボランティアを続けていてよかったなあと思う瞬間です。目をつぶると今までかかわりを持った赤ちゃん、実母、養父母のすべての方々の顔が思い浮かびます。

◆理解ある産婦人科医師、助産婦の皆様、保健婦の皆様はほんとうにお世話になりながら、このボランティアを続けられることに感謝しています。縁組みのころの状況を知る“証人”として元気に長生きし、見守るのが、仲介をした自分たちの務めだと思っています。□

特別養子縁組※ボランティアにかかわって

末日聖徒のA医師 (匿名希望)

※特別養子縁組制度については、13・15ページのコラムをご参照ください。



親子のきずなは形式や書類ではありません

佐藤良三・淑子夫妻 旭川ステーキ旭川第1ワード

佐藤良三兄弟と妻の淑子姉妹が、この世に生を受けて間もない三女の潔呼姉妹に出会ったとき、彼女はとてもかわいらしくにこっと笑った。今まで笑ったことのない子が初めて笑った、と看護婦さんが言う。その笑顔を見たとき、「自分たちの子どもだね」と佐藤夫妻は互いに確信した。良三兄弟の祝福文には「子どもたち」という言葉が記されているが、その祝福は確かに成就し、佐藤夫妻は二男三女に恵まれることとなった。

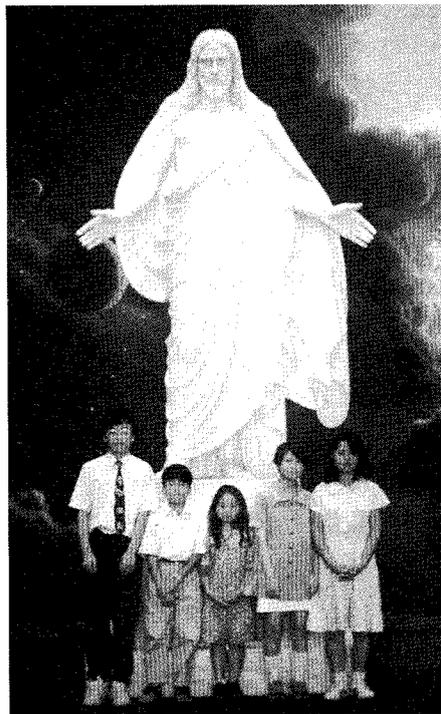
手をかけ、心をかけて

佐藤家では、5人の子どもたち全員が養子として迎えられている。「5人の子どもたちそれぞれとの出会いは、不思議な巡り合わせで、神様の導きがありました。」子どもたちとの出会いを懐かしそうに話す佐藤夫妻は「神殿で結び固められたときに自分たちの子どもになったと実感したのではなく、初めて会ったときから自分たちの子どもだとすでに確信していました」と回想する。

5人の子どもを育てるに当たっての親としての苦勞もさることながら、佐藤夫妻はその親になる前にいくつかの壁を乗り越えなければならなかった。「子どもに恵まれなかったので養子を迎えることを考えていましたが、里親※右ページ上参照でも構わないと思っていました。里親になるためには持ち家でなくてはならないと言われましたので、家も建てました。」子どもを愛する気持ちが強かったからこそ、親子や家族の関係の形にはこだわらなかつた。「年齢や性別などの条件は一切つけませんでした。自分たちに縁のある子どもならばだれでもよいと思っていました」と淑子姉妹は話す。

かけがえのない5人の子どもたちを迎えたころを思い出しながら父親の良三

兄弟も語る。「自分たちが養子を受け入れるのに適した夫婦だと(司法・行政側に)認めてもらうことには、ある面で苦勞しました。あらゆることを説明し、証明しなければなりませんでした。そのために自分たちがクリスチャンであることも、ふさわしく生活していることも話しました。」



**あなたはお母さんのおなかから
生まれなかったけど、
あなたも神様の子どもで、
神様からいただいたんだよ**

子どもを引き取りに行ったとき、淑子姉妹はその生みの親にモルモン書を手渡したこともあるという。

5人の子どもたちが佐藤家の子どもとなった年齢は様々だが、「小さい子には手をかけてあげる。大きい子には心をかけてあげる」という淑子姉妹の言葉の

とおり、だれもおおらかな両親の深い愛情の中で育てられた。

養子であることをオープンに

長男の誠呼人兄弟が幼稚園に通っていたころ、一つの質問が淑子姉妹に向けられた。5才の誠呼人兄弟の前のテレビ画面に、出血して苦しんでいる女性の映像が流れていた。「お母さんもぼくを産んだときあんなに苦しんだの。」淑子姉妹は一瞬、答えに迷った。しかし、「ここでうそをいえば、子どもたちに今まで神様の子どもなんだと伝えていたこともうそになるように感じました。そこでほんとうのことを話しました。」

佐藤兄弟姉妹は子どもたちの理解度に関係なく、子どもたちが養子として家族になったことを話してきた。「あなたはお母さんのおなかから生まれなかったけど、あなたも神様の子どもで、神様からいただいたんだよと、分かっている分からも分らなくても伝えていました。」

子どもたちは幼いころから自分たちが養子であることを聞かされていたので、自然にすべてを受け入れていた。それがもし、思春期になってから急に打ち明けられたのであれば、だいふ受け取り方も違っていかも知れない。が、「そんなものだろう」と思って育ってきた誠呼人兄弟は、「特に抵抗はなかった」と明るく笑う。「自分が養子であるということでは、まったく悩んだことはありません。」

しかし誠呼人兄弟は、結婚し、自分の子どもを持ったことで、自分を生んでくれた人への感謝の思いは今までと少し変わったかもしれない、とも話す。「最近、妻の出産に立ち会い、これだけ大変な思いをして子どもが産まれてくるのかと実感しました。こんなにも大変な思いをして産んでくれたのだったら、生みの親にどこで会うにしろ、会ったら『ありがと

里親制度

里親制度として以下の3つの形があり、養育費その他のとして都道府県で定めた経費が支給されます。

●養育家庭——養子縁組を目的としないで、原則として1か月以上から2年の期間家庭で子どもを養育します。申込者の年齢が25才以上60才未満で子どもの養育経験があるかまたは保母、看護婦、保健婦などの資格があり、18才以上の子または父母などが同居していることが条件。

●養子縁組里親——養子縁組を目的として子どもを養育し、6か月を経た時点で早い時期に養子縁組をします。その際は家庭裁判所の許可が必要となります。配偶者がいて、居室が少なくとも2室10畳以上あることが条件。

●ファミリーホーム——住居の状況、経験年数など一定の要件を備えていれば都道府県が指定し、常時4人から6人の子どもを養育することができます。

う』と言いたいと思います。会ったことはないけれど、産んでくれなかったら今の自分はないわけですから。」

保険証の子どもたちの名前の欄には「長男」や「次男」という表記ではなく、「子」とだけ記されている。戸籍にも養子として記されているので、「自分の背景を知らずにいつか戸籍を見て、嫌な思いをするよりは、親としてはそんな書類の上の記載なんて関係ないんだよと分かってもらいたい。子どもたちに養子であることを話してきたので、今さら戸籍上の記載については気にもしていません」と淑子姉妹は話す。次女の愛呼姉妹もうなずくようにして「ただの紙切れだけだから」と言う。

しかし一方では、普通養子^{※13ページ参照}として記載したことが幸いして、子どもたちの先祖の系図を調べることができた。そうして、5人の子どもたちそれぞれの先祖が救いの恩恵にあずかっている。高校生の潔呼姉妹は皆を代表して、死者のために身代わりのバプテスマを受けている。

「結局はみんな自分の子どもですよ」

母親になって両親の気持ちがよく分かったという愛呼姉妹は子ども時代を振り返りながらこう話す。「父と母はわたしたちをいろいろな所へ連れて行ってくれました。一般的な家庭以上に連れて行ってもらったかもしれませんが。今の自分の子どもたちのことを考えると、よく5人の子どもを連れて出かけていったものだと感心するばかりです。とてもよい思い出として残っています。」

両親と同様、子どもに対する愛情あふれる愛呼姉妹は、世の中で起きている子どもの虐待事件に胸を痛める。幼い命が失われる報道を見るたびに、「そんなので殺してしまうのならば、うちに連れておいで」という気持ちがこみ上げてくるのだという。

子どもたちは両親の愛情に包ま

れ、分け隔てなく育てられてきた。誠呼人兄弟や愛呼姉妹は、家族というものは順番に子どもがやって来て増えていくのだと自然に受け入れていたらしい。しかし、末っ子の潔呼姉妹には、そうした経験がなかったうえ、改まって話されたこともなかったので、「初めて聞かされたときには放心状態になってしまった」と振り返る。しかし今では、「『あなたはすごく恵まれているよ』と友達からうらやまれることもあります。家族みんなの仲がよいからです」とほほえむ。

「潔呼は繊細で感受性が強いので、今でも『お母さんから生まれた』と思いたいようです。たまたまわたしは神様から子どもをもうける力を与えていただけなかっただけで、ほかの人の力を借りただけなんです」と母親の淑子姉妹は笑顔で話す。

「結局はみんな自分の子どもですよ」という佐藤兄弟姉妹は、子どもだけではなく、今では孫たちにも囲まれ、家族の強いきずなはさらに世代を越えて広がっているのである。□



左——お孫さんを抱く佐藤兄弟姉妹。後列は愛呼姉妹(左)、潔呼姉妹(中央)、誠呼人兄弟(右)。

左ページ——子どもたちがまだ幼かったころ、家族全員でハワイ神殿へ行ったときに撮影。訪問者センターのクリスタス像の前に並んだ5人きょうだい。左から、誠呼人兄弟(長男)、諒一兄弟(次男)、潔呼姉妹(三女)、愛呼姉妹(次女)、三佳姉妹(長女)。

20年間待ち望んだ大切な我が子

安達和男・野里子夫妻 岡山ステーキ米子ワード

ある寒い夜、安達兄弟姉妹は窓の外から聞こえる声が気になって仕方がなかった。近所の人たちもその声を気にしているようだった。しかしだれも外へ出る者はない。戸外に出された子どもの泣き叫ぶ声が暗闇に響いていた。「出ていって注意してよいものかどうか、随分と悩みました。」安達和男兄弟は、泣き叫ぶ子どもをそのままにしておくに忍びず、その子のもとへと向かった。「見れば、3才ぐらいの子どもで、寒空の中、裸足でドアの外に出されていました。震える子どもを優しく抱きしめ、落ち着いて泣きやむまでそのままにいました。」子どもが泣きやんだころ、安達兄弟はドアをノックした。出てきたのは30代半ばの父親。安達兄弟は尋ねた。「何でこんなことをするんですか。わたしはこの子の泣き声に耐えられなくなってここにきました。こんな小さい子に、このような仕打ちをしないで家に入れてあげてください。」父親は、これは自分の家のしつけだ、と反論した。「しつけというかも知れませんが、これはしつけではありません。自分も子どもの時に厳しくしつけられた経験もあります。しかし、この子はあまりにも小さすぎます。傷つくだけです。」「そんなに言うなら、あんたが連れて行って育てたらいい。」安達兄弟の言葉に感情的になった父親はこう吐き捨てた。安達兄弟が当惑することを期待して。しかし……「あなたがそう言うならば、わたしはいくらでも育てますよ。」その返事に当惑したのは父親の方だった。

最終的に父親は子どもを家の中に入れ、事態は収拾した。後に、その子どもは離婚した母親に引き取られていったという。「いじめられたり、虐待されている子どもを見ると、命をかけてでも守りたくくなります」と、安達夫妻はその出来事を振り返る。

子どもを愛する思いの深い安達夫妻には、二人のお子さんがいる。11才で長男の聖也君と5才になる長女の静羅ちゃんである。聖也君は5才のとき、静羅ちゃんは1才10か月のときに特別養子縁組として安達夫妻に迎えられた。

ある時、聖也君が「ぼくはお母さんのおなかから生まれたの」と尋ねたことがある。「そのときにうそを言うてはいけなと思ったので『違うんだよ』と伝えました。『じゃあ、ぼくは施設で生まれたんだね』と言って深く尋ねてくることはありませんでした。『ぼくにはお母さんが二人いるんだね』と言っていました。養子であることへの説明は年齢にあわせて理解させていますが、自然に任せている部分もあります」と母親の野里子姉妹は話す。

子どもたちを待ち望んで

夫婦ともに大の子ども好きだったが、野里子姉妹は結核を患うなど体調がすぐれず、子宮外妊娠で生死の境をさまようという苛酷な体験もした。結局、子どもに恵まれることはなかった。「今の医学でわたしたちにできると思えるようなことはすべてしました」と安達夫妻は言う。

「以前、『聖徒の道』に養子を迎えられた方のお話が掲載されていました。治療をやり尽くしたころ、主人がその記事を読み、養子を迎える決心をしました。その後、自分たちで施設に連絡したり、いろいろな所に電話しました。記事を書かれた方を紹介していただき、電話でお話しもしました。様々なアドバイ

スがかれたお手紙もいただきました。」安達夫妻は、記事に励まされるように里親の登録をし、子どもと巡り会う日を待ち望むこととなった。

「何も知らないわたしたちにとって、子どもを迎えることはそんなに簡単なものではありませんでした。最初は児童相談所でも、わたしたち夫婦が迎えられるような子どもはいないと言われました。しかし、実際にはそのとき、長男は施設ですでに生活していたのです。矛盾した話ですが、最初は冷たくあしらわれたような感じで、4月に登録はしたものの、半ばあきらめかけていました。

しばらくして、神殿の儀式執行者としての召しのために夫婦で菊地良彦長老から面接を受けました。子どもについて尋ねられましたので、児童相談所に登録したことなどを伝えたところ、なんらかの形で子どもが授かる、と菊地長老は祝福してくださいました。それが11月のことでした。」そして翌月、後に長男として迎えられる聖也君との出会いが訪れたのだった。

「様々な事情のために親元へ帰れない子どもを、



上—幼いころから仲の良かった静羅ちゃん(左)と聖也君(中央)。安達兄弟とともに。右ページ—東京神殿別館の前にて。

12月の末からお正月にかけ一時的に里親として預かる機会に恵まれました。子どもたちのリストを眺めていると、12月25日に生まれ、「聖也」と名付けられた子どもに関心が強まりました。クリスマスに生まれて、良い名前も付けられているのに、どうしてなのだろうと思ひ、結局はその子どもを預かることとなりました。

数日を我が家で過ごし、その写真を後日、施設へ持っていった時のことです。園長先生に『彼は養子として迎えることができる子どもなんですよ』と言われて驚きました。該当する子どもはいないと言われていましたので、彼に対する思いも強まってきました。それから1年ほど通い続け、少しずつ互いの思いが近づいてきました。『そう話す野里子姉妹は、菊地長老から祝福を受けてその翌月に聖也君と出会ったことは、決して偶然ではないと確信している。安達兄弟もこう振り返る。「会った時点でこの子は特別な子どもだと感じました。きちっとして、むしろ子どもらしくない子どもでした。本来ならば、もっと早い時期に施設を出てもおかしくない子どもでしたが、受け入れ側との相性から、施設に返された経緯もありました。もし、一声かけてもらえなければ、写真を渡して帰っただけで終わっていたかも知れません。』

「その後、『子どもはもう一人の方がよい』と感じ、乳児院に出かけて行って静羅と出会いました。何度か訪問して引き取る用意を始める段階になると、静羅は訪問する度に泣くようになりました。1才半でしたが、自分の置かれている状況を察していたようでした。乳児院から離れて引き取られることを感じていたのだと思います。」とても控え目だった静羅ちゃんも、今では幼稚園で一番活発なほど元気な子どもに変貌したと夫妻は笑う。

血縁と家族

「わたしたち夫婦は初めから神様を信

じていたので、子どもたちは生まれた場所が違うだけで、元は同じ所から送り出されたこと知っています。ですから、まったくわだかまりはありませんでした。子どもが養子であることは周囲も知っています。夫婦であっても血のつながりはありませんから、血のつながりがなくても、親子として、家族としてのつながりにはまったく影響はありません。子どもが家庭に迎え入れられるには様々な方法があるというだけのことです。」安達兄弟は家族の結



**夫婦も血のつながりはありませんから、
血のつながりがなくても、
親子として、家族としてのつながりには
まったく影響はありません。**

びつきについて、そう考えている。

聖也君は妹の静羅ちゃんのことをとてもよくかわいがりますが、母親と3人になると、自分は5才から来たけれど、妹は1才半から来たと言って焼きもちをやくこともある。しかし、そんなとき安達兄弟はこう言い聞かせる。「お父さんとお母さんは、お前がここに来るのを20年間も待っていたんだよ。いつもお祈りをしながら待っていたんだよ。それほどお前は大切な子どもなんだよ。」

安達夫妻は、二人の子どもを育てることで人生の目的が広がったのを喜んでい

る。「子どもを育てるのは特権だと感じていますし、これから楽しむんだという気持ちです」と笑う。

「わたしたちの生活のベースには福音があるので助かります。もしなければ、二人の子どもを育てる自信はなかったかも知れません。また、この世間的なことがとても気になったのではないのでしょうか。多くの人は養子を迎えるに当たって条件を付けます。しかしわたしたちは、どんな状況の子でも構いませんと伝えていました。わたしたちは選ばせませんでした。その結果、わたしたち夫婦にとって一番ふさわしい子どもに恵まれたのだと思います。子どもたちは神様の所から来るのであって、どちらにしてもわたしたちの子どもに変わりありません。」

安達兄弟の夢は、聖也君が今年の12月に12才になってアロン神権を受け、親子でホームテイチングをすることだという。20年間も子どもに恵まれず、一時は夫婦伝道に出ることも計画した安達夫妻だが、ここしばらくは子育てに多忙な日々を送ることになるだろう。□

子どもを巡る用語 2

養子縁組制度

●普通養子——戸籍に実父母の氏名と養子であることが明記されます。

1898年(明治31年)にできた制度で「家」の存続が目的です。家庭裁判所の介入なしに、当事者同士の合意により届け出ただけで養子縁組の手続きが成立しますが、同様に協議により離縁もいつでもできます。

●特別養子——戸籍上、実子扱いとなり、養父母の氏名のみ記載となります。

1988年(昭和63年)に新たに制度化された方法で、現時点では子どもの福祉という観点からは最も好ましい方法と思われる。子どもが生みの親のもとに戻る見込みがない養子の場合には、法的に生みの親との親子関係が終了し、育ての親の実子としての扱いを受ける当制度の方が適切です。ただし、普通養子は届け出ただけで成立するのに対し、特別養子は家庭裁判所に申し立てをし、試験養育期間として6か月間の観察期間を要し、その審判が下されるのを待たなければなりません。

永遠の縁組みで結ばれた家族

匿名希望

わ たしたち夫婦は結婚してからずっと子どもが欲しいと願っていましたが、なかなか恵まれることはありませんでした。子どもが欲しいという気持ちは理屈ではありません。わたしたちにも理由など必要ありませんでした。女性にとっては自分で産むことによつて母親になるという気持ちもあります。だからこそ、不妊治療にもできるかぎり挑戦していました。結局は自分たちの霊的な経験を通じて、養子として子どもを迎えることに確信を持ち、夫婦で納得しました。子どもたちのことが公になっていくと、十分に準備ができていないうちにほかの方から養子であることが伝えられることを思い、少し不安になることもあります。子どもにはいつも話してはいますが、どこまで理解しているか分かりませんので、告知するのは自分たちからと思っています。100人の人がいた場合に、99人の善意の人たちに恵まれていたとしても、たった一人の悪意を持った人によって、思いも寄らない行動や言葉で子どもたちが傷つけられることを恐れて、今の時点ですべてを公にはできないという気持ちもあります。周囲の方々
は我が家の子どもが



養子であるとは知っていますが、完全に不安が解消されているわけではありませんので、今回は匿名として、多少の配慮をすることにしました。

社会制度上の手続きと奮闘して

養子として子どもを迎えることには様々な苦勞も伴います。宗教のこと、育ってきた経緯、子どもへ求めていることなど、行政からも詳細な面接を受けました。中には最初から断られてしまう方もいます。行政側の人との巡り合わせで子どもを迎えられるか迎えられないかに影響を受けることもあります。養子を迎える人々にはだれもがづらい経験をし、苦勞を積み重ねています。自分たちにとってはそれが産みの苦しみと同じだったと感じています。わたしたちの場合には、非常に親身な家庭裁判所の調査官の方と巡り会いましたし、また神様の祝福を受けることができました。

子どもの予防接種を受けに行つたとき、まだ家裁の審判^{※13ページ参照}が下りる前で名字が違ったので保護者として認められずに拒否されたことがあります。児童相談所から保健所に連絡があれば問題はなかったのですが、手続きを

知らなかったばかりに悔しく悲しい思いをしました。わたしたちにとっては子育ての苦勞よりも、行政上の手続き、戸籍謄本のこと、裁判所の書記官との手続きなどと奮闘することの方が多かったように思います。

一度体験したわたしたちはある程度のノウハウを知っています。教会の中でお子さんに恵まれていない方たちには、身近には必ず理解していただき、助

けてくださる方がいらっしゃることを知っていただきたいと思います。福音をベースとする信頼感でつながった、お子さんを求めている教会員の方々との集まりや情報交換のネットワークができればいいと希望しています。

経路は違っても……

日本ではまだまだ偏見も残っていますが、そのような中でも福音があれば乗り越えられることもたくさんあります。経路は違っても神様から与えられた子どもです。子どもには、「ママのおなかが少し壊れていて、神様が、別の方法であなたを送り出してくれたんだよ、でも親子なんだよ」と話しています。子どもには、養子として生まれてきた自分に誇りをもって生活してほしいと思います。そして将来、様々な境遇の人たちの力になれるような人間に育ってほしいと願っています。

初めて子どもと会つたときに、この世に生を受けて間もない子どもは、実に頼りなげで、実にいじらしい存在でした。夜中にミルクを飲ませているときに、おでこを触りながら子どもの名前を呼び、家族のことを話し、これからみんなで一緒に生きていこうねと話しかけました。そのわたしの言葉に反応して、にこっと笑顔を見せました。生まれたばかりの子どもでしたが、この子は自分の置かれている境遇を分かっているんだと母親として感じました。現在子どもは元気ですし、成長を見るのがとても楽しみです。子どもを迎える前は、男の子でも女の子でも、どこの国籍の子でも構わないと伝えていました。どんな子をいただいても楽しかったと思います。わたしたちにとって子育てと血のつながりはまったく関係ありません。

神聖な瞬間

神殿での結び固めは家庭裁判所の審

特別養子縁組制度をめぐって

特別養子縁組制度は子どもの利益を守るのを目的とし、1988年に発足した制度です。従来の一般養子制度と違い、養子としてではなく実子として戸籍謄本に記載され、養子で入った事実や実父母の名前などはいっさい記載されません。当然、特別養子の財産分与は他の子どもたちと同じです。したがって祖父母や親戚の了解を十分にする必要がある方もいらっしゃるかも知れません。養子を希望される方は、いきなり特別養子を考えずに、まずは養護施設に出入りしたりショートステイを試みたりして、自分や家族が続けていけるかどうか何度も試してみるようにお薦めします。

そのほか、公的な機関(児童相談所その他)を通して養子をもらう場合、管轄の地域内の子どもから斡旋しようとするため、巡り会うチャンスは限定されます。そのため、末日聖徒ファミリーサービス事務局のように、広い地域の関係者から情報を集めるネットワークの存在が求められています。

アメリカでは非常に自然な形で様々な人種の子どもたちが多くの家庭に引き取られています。それは、ボランティア精神のみならず、おそらく“みんな神様の子ども”というおらかなクリスチャンの宗教観から来るものではなからうかと感じます。(A医師)

判が下りたときよりも、何よりもうれしいものでした。それまで主人は、車を運転していても、結び固められる前にもし事故で自分が死亡するようなことがあればどうなるのかといった不安に駆られ、できるだけ早く結び固めたいと願っていました。儀式が執行された後、やっと家族としての準備が整ったと思ひ涙があふれました。自分の人生の中でこれほど神聖な瞬間を感じたことはありません。教会員でよかったと何度も思いました。わたしたちが家族として一つに結び固められる祝福が与えられていることに何よりも感謝しています。□

末日聖徒ファミリーサービス事務局

2002年7月19日付けの大管長会の手紙にあるように、末日聖徒ファミリーサービス事務局は、教会員の福利にかかわる仕事を行っています。養子縁組の支援もその一つです。

日本においても、複数の末日聖徒の産婦人科医とのネットワークを通じて、養子縁組を望む夫婦と生まれてくる赤ちゃんとの間の紹介援助サービスや、法律や手続きに関するアドバイスをしたりしています。

大管長会は、生まれてくる子どもを育てられない事情があるときは、「末日聖徒ファミリーサービス事務局を通して、子供を養子に出すよう……勧めるべきです」と

手紙の中で述べています。霊的にも物質的にも、子どもにとって最大の福利を第一に考えるならば、「養子に出す」という選択も時に生みの親の下せる正しい決断であるといえます。

特別養子縁組制度の発足によって、特別養子縁組をした子どもは、社会的・法律的には実子と変わらないようになりました。ただ、末日聖徒ファミリーサービスが一般の福祉サービスと違うところは、縁組みされた子どもと両親が神殿において結び固められることを目的としている点です。戸籍上で親子となるのみならず、この世から永遠にわたって家族のきずなが結

ばれ、子どもたちは福音の光の下で育つ祝福にあずかることができるのです。

昨年6件の縁組みが成立し、現在は15家族が子どもとの出会いを待っています。どの子どもにどの夫婦がふさわしいか、祈りをもって慎重に導きを求めることがしばしばあります。それは、人の永遠の行く末に関与する霊的で厳粛な経験です。

末日聖徒ファミリーサービス事務局と連絡を取りたい場合は、地元の神権指導者へお問い合わせください。□

03-3440-2385

心のうた

22²³ A=もどろ

子どもの詩2篇

小室貴優(9歳)

おふる

ぼくは、おふるが大好きです。いつもは、お母さんと入るけどお父さんと、入る時の方が楽しいです。

だって、お父さんは、おふるで遊んでくれるから、

だけど、お父さんは、

おふるからあがった時

「つかれた」と、言います。

おふるに入ったら、つかれが

とれるはずなのに、

どうしてかなあ

トンボ

ぼくが、学校から帰ると

お母さんが「お帰り」と、言ってくれた。

家に入るとすぐに、雨がふってきた

外には、一ぴきのトンボがいた。

あのトンボには、おうちがないのかな

そして、「お帰り」と、言ってくれる

お母さんが、いないのかな

あの一ぴきのトンボが、

とつてもきになった。

小室貴優くんは、郡山地方郡山支部の会員です。家族の温かい風景を切り取ったこれらの詩は、郡山市内の小中学生の詩集「ぼくらのひろば」第35号(郡山市総合教育支援センター)編で特に選ばれたものです。(編集室)

生涯学習を重んじる

以下の文を訪問先の姉妹たちとともに読んで、質問や聖句、教会指導者の教えについて話し合ってください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に言うよう勧めてください。

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「この教会では教育を重んじています。……知性を磨いていくにつれ、わたしたちはさらに神に似た者となります。『神の栄光は英知である。言い換えれば、光と真理である。』（教義と聖約93：36）『わたしたちがこの世において得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる。』（教義と聖約130：18）『教育は一つの投資であって、いずれ何らかの形で必ずその報いが返ってくるものです。』（「あなたの内なる神の賜を伸ばしなさい」『聖徒の道』1990年1月号, 97）

教義と聖約第88章118節——「また、すべてが信仰を持っているわけではないので、あなたがたは知恵の言葉を熱心に求め、互いに教え合いなさい。まことに、最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス——「わたしたちは、様々な分野で蓄積された学問を研究し、創造主から与えられた論理的な思考力を用いて知識を得ます。また、啓示を与えてくださる神への信仰によっても知識を得ます。……自ら汗して努力した人々に靈感は与えられるのです。科学や学芸の分野で靈感によって与えられる知識は、探求者にとって思いがけない贈り物と言えます。しかし、神と福音の教義を知ろうとする人々にとっては、それは基本的な方法なのです。この分野の知識を得るには、学識と論理だけでは足りません。」（「さまざまな他の声」『聖徒の道』1989年7月号, 32）

教義と聖約第88章77節から79節——「また、あなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。それは、……あなたがたが理解する必要のある神の王国に関するすべてのことにおいて、あなたがたがさらに完全に教えられるためである。また、天のこと、地のこと、地の下のこと、かつてあったこと、現在あること、すぐにも必ず起こること、国内にあること、国外にあること、戦争と諸国民の混乱、地上にある裁き、国々と王国に関する知識についても同様である。」

大管長 スペンサー・W・キンボール (1895-1985年)——「わたしたちは頭脳を明晰にし、傷ついた心を癒し、……精神と霊が健やかに養い育てられるような家庭を築くために修養を積みなければなりません。……学校教育は、ナイアガラ川の小峡谷や金門海峡に橋を架けるすべを教えるだけでなく、世界中にはびこる誤解と憎しみ、不和という深い溝に橋を架けるすべを教えるものでなければなりません。」（*The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編 [1982年], 391）

大管長 ブリガム・ヤング (1801-1877年)——「わたしは生きているかぎり学び続けます。霊界に行っても学びます。霊界ではより大きな力をもって学ぶことでしょう。そして再び肉体を受けるときには、今の1,000分の1の時間で、1,000倍のことを学ぶようになります。だからといって学ぶことをやめるわけではありません。」（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』214-215）□

■「**教訓に教訓**」を加えていくことを理解していれば（教義と聖約98：12）、生涯学習者として努力していくうえで、どのような指針が得られるだろうか。

■わたしたちが生涯学習者となるとともに、家族をはじめ、影響が及ぶ範囲内にいる人々すべてにも同様に生涯学習を奨励していくにはどうしたらよいだろうか。



エルドラ

リチャード・M・ロムニー、ネスター・ハビエル・パッセ

若い男性の写真/リチャード・M・ロムニー（特記されたものを除く）

アルゼンチンに住むこの若い男性たちは、最も価値のあるものが何であるか知っています。



エルドラーの宝

「父があなたがたに与えたいと望んでおられる富を、あなたがたが求めるならば、あなたがたはすべての民の中で最も富んだ者になるであろう。あなたがたは永遠の富を持つからである。」
(教義と聖約38：39)

伝 説では、エルドラドという、すばらしい宝のある場所があったとされています。それは黄金の町々が並ぶ地だったということです。多くの人々がエルドラドを探し当てようとしてきました。コ罗纳ドという名の男は生涯をかけてその地を突き止めようとしてきましたが、失敗に終わりました。ほかの人々も、宝を巡って争い、命を落としました。富を求めるために命をささげたのです。

しかし、別の意味での宝について知っている人々もいます。例えば、アルゼンチン、ブエノスアイレスの若い末日聖徒たちです。彼らが知っているのは、この地上の宝ではなく、永遠の宝についてです。それは回復された福音の宝のことです。その宝は、まさに、彼らの家の玄関先に届けられたものでした。

1999年4月のある日の午後、ブエノスアイレス郊外のエルドラードに、白



マティアス・バジェホスと
エアラス・バジェホスが、
宣教師たちから初めて教会の
回復について聞いたとき、
その話は不思議に思えました。
しかし、彼らはモルモン書を
研究し、モルモン書について
祈りました。すると、
二人の前に差し出されたものが、
すばらしい宝であったことが
分かりました。

いワイシャツにネクタイの青年二人が、
バジェホス家のドアをたたきました。青
年たちは自分たちのことを、世界中に
神の言葉を広める宣教師であると紹介
しました。彼らは言いました。「わたし
たちは、すべての人がイエス・キリスト
を見いだすよう招かれていること、また、
父なる神のもとに帰る真実の道を見い
だすように招かれていることなどをお伝
えています。」

そのようなメッセージが届けられるな
ら、まさに宝となることでしょう！一家
の父親ドン・ルベン・オルランド・バジェ
ホスは、この青年たちの話を聞くべき
であると感じました。そして彼らと約束
を作って会い始め、福音について話し
合うようになりました。妻は関心を持ち
ませんでしたが、二人の息子(12歳の

マティアスと11歳のエアラス)が、時々
一緒に聞いていました。

息子たちは初め、真の教会の回復に
ついての話があまり理解できませんでした。
しかし時がたつにつれ、次第に宣
教師の言っていることには価値がある
という確信を深めていきました。そして
自分たちにも教えてほしいと願いまし
た。

エアラスはこのように言っています。
「初めて宣教師から正式に福音を教わっ
たとき、宣教師はぼくたちに、モルモン
書と教会が真実かどうか、祈って尋ね
るようにと言いました。その夜ぼくは祈
りました。翌日目が覚めると、宣教師
から言われたことをすべて行いたいとい
う強い気持ちがわいていました。心か
らの祈りをささげれば、祈りはいつもこ
たえられることが分かりました。」

祈りの力への理解。真理への^{あかし}証の芽
生え。それらは、まさに宝です。

マティアスもまた、宝を見だし始め
ていました。「聖典や教会の出版物がと
ても役立ちました。」マティアスは、モル
モン書の中のある一つの聖句が心に深
く残りました。「わが子よ、忘れずに若



いうちに知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守ることを若いうちに習慣となさい。」(アルマ37:35)

この兄と弟は、アルゼンチン、フロレンシオバレラステーク、エルドラードワードに集うようになりました。1999年9月29日、マティアスとエリアスは両親の許可を得て、バプテスマを受けました。

二人がその後も学び続けたことは、まさに、自分たちがどれほど霊的に豊かになれるかについてでした。その一例として、バプテスマを受けて2週間後、マティアスはアロン神権を受け、執事に聖任されました。そのときのことをマティアスはこう話しています。「すぐに、天から力を受いたと感じました。」そのとき、マティアスは聖霊の影響力も感じていたのです。つまり、マティアスが教会員に確認されたときに受けた賜物の影響力を感じていたのです。

マティアスはこのように話しています。「イヤリングを試してみたいという誘惑に、心が動かされていました。そんなときに、教会に行くときや活動に参加するときにどんな服を着たらいいかについて書かれた小冊子をもらいました。それを読んで、悔い改めました。あるとき母が、またイヤリングをするのかと聞きました。母に、もうイヤリングなどしたくないと伝えました。ほんとうにそう思うことができたのです。誘惑に打ち勝つための力を感じました。

一つの宝を見いだせば、もう一つの宝を見いだすことができます。エリアスは、祈りが豊かな経験であるということ学びました。



マティアスは、真理に対する証は、分かち合えば、さらに貴いものとなることを発見しました。

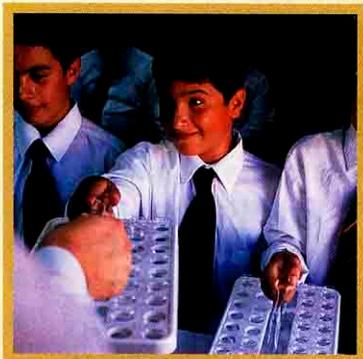
御霊がわたしにささやいて、正しいことをするように告げているのを感じました。」

神権にある力。聖霊からの導き。もちろん、それらも宝です。

マティアスとエリアスは学んでいることにとても感動していました。それで、見いだしたばかりのその知識を分かち合いたいと思いました。そして、近所のある友達に話し始めました。その友達とは、アンリケス家の男の子たちでした。当時、兄のファン・カルロスは12歳で、弟のエステバンは11歳でした。とりわけファン・カルロスは関心を持ちました。そしてすぐに宣教師の話を聞くようになり、教会の集いに集うようになりました。数か月後、ファン・カルロスはバプテスマを受け、間もなく執事に聖任されました。

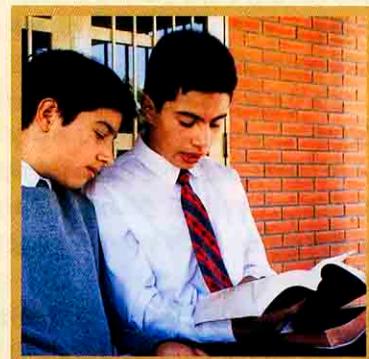
マティアスとファン・カルロスは、だんだんと神権の高い職を受けていきました。マティアスは13歳のときに執事定員会の会長に召されました。またエリアスは12歳になり、執事になりました。1年後マティアスは14歳になって教師になり、間もなく教師定員会会長に召されました。ファン・カルロスも14歳になり、教師に聖任されました。

そして、すばらしいことが起きました。マティアスとエリアスの父親であるドン・ルベン・オルランド・バジェホスがついにバプテスマを受けたのです。バジェホス兄弟は精肉業を営んでいます。それで、仕事の都合でなかなか教会に足を運べなかったのです。しかし息子たちが成長していき、人々に奉仕している姿に心を動かされました。バジェホス兄弟のバプテスマの日には、盛大なお祝いとなりました。仕上げは、「アサード」(直火焼き牛肉)のごちそうまで出てきました。しかしもっと印象的だったのは、集まった人々が霊的な雰囲気を保っていたことです。



救い主がなさったように
神権の力を使い、人を祝福し、人に仕える
ならば、神権の力は増します。エステバンは、
そのことを知りました。

フアン・カルロス(右)は、聖文を
勉強するうちに、靈感の宝石が尽きることなく
わき出る源を見いだしました。



マティアスとエリアスは、友達のエステバンにバプテスマについてどう思っているか尋ねました。エステバンはそのときのことを振り返って、こう言いました。「バプテスマについて特別な気持ちを感じていたって答えました。バプテスマが大好きだって言ったんです。」二人はエステバンに宣教師から話を聞いてみたいか尋ねました。「ほくは、聞きたいと言いました。そして、こう言ったんです。『ほんとうは、バプテスマを受けたいんだ。』」数週間後、福音の教えを聞き終えたエステバンは、バプテスマを受けました。そしてすぐに執事に聖任されました。

神権者としての奉仕は、フェローシップの宝。ほかの人が福音を受け入れるのを見るときの感動は、喜びの宝。この宝の大きさは計り知れません。なぜなら、それは永遠の富という宝だからです。

現在のエルドラードワードのアロン神権者たちの様子を見てみましょう。バジェホス家とアンリケス家の少年たちはどんなふう活躍しているのでしょうか。エリアスは執事定員会の会長で、エステバンは副会長です。マティアスは教師定員会の会長で、フアン・カルロスは副会長です。毎週彼らは、教会に来ていない定員会の会員を訪問しています。これまで何人かの若い男性を教会に連れ戻すことができました。もし彼らは何らかの働きかけをしていなければ、この若い男性たちは今ごろ、教会から離れてしまっていたことでしょう。マティアスとフアン・カルロスは現在、早朝セミナーに出席する年齢です。日曜日には、この4人の友達は、一緒

に聖餐^{せいさん}の準備やバスをしています。バジェホス家の二人の息子に会ったら、こう話してくれるでしょう。「お父さんは、うちの店のお客さんに証をしています。今、そのうち何人かが宣教師の話を知っているんですよ。」

4人の少年たちの証も強まってきます。人に証を分かち合ってきたからです。マティアスは近ごろ、証を強める経験をしたと話してくれました。「少し前ですが、土曜日の夜寝る前に祈って、もっと多くの人が教会に来るように

お願いしました。次の日曜日、教会にはたくさんの人が集っていました。うれしかったです。このようなことを通して、証が強くなっています。教義と聖約でジョセフ・スミスについて読んでも、証が強められます。ジョセフ・スミスのように祈りたいです。ジョセフ・スミスはほくと同じ年だったんですよ!」

エリアスもまた祈りの力を知っています。「祈りを通して、モルモン書が真実であると分かりました。祈りを通して、教会が真実であると分かりました。ほくは、自分で立てた目標に向かって歩み続けようと決意しています。伝道に出る日まで、ほくは成長し続けます。」エリアスは伝道地で、さらに成長することでしょう。

ファン・カルロスはいくらまでの自分の

歩みに感謝しています。「マティアスとエリアスが、ほくと弟に教会のことを話してくれたので感謝しています。」エステバンも同じように思っています。エステバンははっきりと、こう語りました。「二人はほくたちが最高の宝を見いだせるよう助けてくれました。真理を見いだせるよう助けてくれたんですから。」

証に証。永遠の観点、心と魂の豊かさ。そうです、エルドラードでは、宝を見つけることができます。それは高価な真珠であり、無限の価値がある霊的な宝なのです。□

今、ファン・カルロス・アンリケスとエステバン・アンリケスは、マティアスとエリアスが福音に導いてくれたことに感謝しています。エステバンはこう語りました。「二人はほくたちが最高の宝を見いだせるよう助けてくれました。真理を見いだせるよう助けてくれたんですから。」



人々を愛し、支える

十 二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように語りました。

「友人や隣人、さらには見知らぬ他人を支持するということは、励まし、力づけ、助けることです。直面する問題の重みに耐えられるように、わたしたちは互いに支え合います。人生で各自が苦難を経験するとき、互いに重荷を負い合うのです。」これは主の教会の会員であるわたしたちの責任です。なぜなら、「わたしたちの経験のあらゆる面について言えることですが、主イエス・キリストは、この非常に重要な支持するという点においても模範を示し



てくださってい」るからです(本誌、11ページ参照)。🌸 救い主からそのような大きな愛と支えを受けているわたしたちは、主の模範に従って、人々を愛し支えることを望んでいます。この望みが若い男女を宣教師として奉仕し主を証するよう駆り立てているのです。またこの望みは会員たちに、道を迷い出た人々に愛の手を差し伸べる力となっています。これから紹介する物語は、この望みによってどのように生活が変化を遂げたかを描いています。つまり、愛の手を差し伸べた人々、そしてそれを受けた人々の姿です。

「主は生けりと知る」

フランシスカ・クリスティーナ・ピラー・レイ

1990年の冬、わたしはスペイン・バルセロナ伝道部のレリーダという都市で専任宣教師として働いていました。同僚のマッキー姉妹が病気になったため、わたしたちは数日間アパートから出られませんでした。わたしたちは気落ちしていました。特に、何人かの求道者はようやくレッスンが順調に進む状態にまで来ていて、もっと教える必要があったからです。レッスンが順調に進んでいないほかの求道者には、励ましが必要でした。わたしたちはこの困難な時期を効果的に過ごせるよう祈りました。

ある朝、救い主について勉強しているときです。わたしたちは救い主に対して抱いている気持ちを分かち合い始めました。突然、時間を有効に使う方法が分かったのです。イエス・キリストの生涯と使命についての発表作品を作ることを思いついたのでした。

助けを求めて祈ったときに、わたしたちは平安な気持ちに包まれました。描く必要のある絵や、そこに添える言葉について考え始めました。ある特定の資料を開くように感じると、まさにそこに、わたしたちが必要としている語

句や絵を見つけることができました。必要な絵が掲載されている『リアホナ』や『エンサイン』(Ensign)を思い出すことができました。手もとにない絵を手に入れるために会員たちやほかの宣教師に手伝ってもらいました。音楽を探するときも同じような経験をしました。

**発表を進めていくうちに
マッキー姉妹もわたしも感極まって
せりふを読むことが
できなくなりました。**



何日かかけて、作品の構想を練り上げました。発表するときにすべてがびったりくるよう何度も練習を重ね、音楽とナレーションを合わせました。

作品のタイトルが次第に明らかになってきました。計画が完成していく過程で、以前に気がつかなかった救い主の使命の持つ様々な局面を理解するようになりました。今より確かな信念をもって「主は生けりと知る」と言うことができるようになったのです。この言葉が作品のタイトルになりました。

マッキー姉妹が回復するとすぐに、何人かの求道者にレッスンを補う目的でこの作品を発表し始めました。最も霊的な経験はアラランダ家族を教えているときのことです。アラランダ家族はすでに祈っており、聖文を読み、分からないところがあれば質問するようになっていたのですが、バプテスマの決意ができませんでした。わたしたちは最後の努力を傾けることにしました。救い主についての作品を分かち合うことにしました。

こうして、伝道中、最も忘れることのできない経験の一つが始まりました。発表を進めていくうちにマッキー姉妹もわたしも感極まってせりふを読むことができなくなりました。発表が終わったとき、だれも沈黙を破ろうともしませんでした。部屋中に広がっていた平安を壊すことができなかつたのです。アラランダ兄弟は頭を垂れていました。ようやく話し始めた彼の目には涙があふれていました。「今ここで感じている気持ちがどういふものなのかよく分かりません。」彼は胸の辺りを指し、続けてこう言いま

した。「言い表せませんが、とても強く感じる、すばらしい気持ちです。」

数日後に、アラランダ家族を訪れたとき、彼らはバプテスマを受ける決意をしていました。

わたしは3週間後に伝道を終えて、スペインのラコルーニャの家に戻りました。伝道で得た最大の祝福は救い主についての知識が増し加えられたことと、主の業で働くことを心から望むならば主のお役に立てるという確信を得たことでした。

フランシスカ・クリスティーナ・ビラーレイはスペイン・マドリド東ステーク、マドリド第4ワードの会員です。

「どうしてそんなに変わったのですか」 フアナ・リベロ・デ・ゴンサレス

わたしは非常に若いころに福音に改宗しました。青少年の時代から教会で様々な召しを受けました。それらの召しを通して受けた喜びは言葉では言い表すことができません。けれども青少年時代の最もすばらしい経験は伝道に出発する1週間前にやってきました。

宣教師の申請書を提出したのは1976年の1月でした。とても長く感じましたが、しばらくして、メキシコ・モンテレー伝道部で働くように告げる手紙を受け取りました。

ステーク会長は解任される直前でしたので、わたしは伝道に出発する1週間

前に任命されました。ステーク会長は、任命されてからの毎日の過ごし方に注意するように言いましたが、あと1週間仕事を続けることについては了承を得ました。わたしは前からそのように計画していました。できるだけ長く働き、伝道の費用を賄い家族を助けるためにもっとお金を稼ぎたかったのです。任命を受けた日曜日の夕べ、ステーク会長の家を出たときに、わたしは全身にすばらしい、温かいものを感じました。

翌朝、目を覚ますといつものように仕事に出かけました。職場のあるビルに入ると、エレベーター係の人にあいさつして、わたしの行く階を伝えました。エレベーター係は返事もしないでわたしを見詰めていました。そこへわたしの会社の経営者たちが乗り込んで来ました。わたしたちはお互いにあいさつを交わしました。エレベーターの扉が閉まって、気がつくとう上司たちもわたしを見詰めていました。何かあったのかと尋ねられたので、特に何もありませんと答えました。

働いていた部署へ入って行くと、同僚たちが話をやめてわたしに目を向けました。わたしはまだ、その理由が理解できませんでした。

その日の午後、わたしは上司たちの部屋に呼ばれました。彼らはわたしの代わりに人を推薦してくれるように言いました。それから、わたしがどうしてそんなに変わったのかと尋ねました。わたしは自分の宗教と伝道のことについて話しました。彼らは喜んでくれましたが、仕事を辞めることを許可してはくれませんでした。その代わりにわたし



会社の経営者たちはエレベーターに乗り込んで来ると、わたしを見詰めていました。わたしは何があったのかと尋ねられました。

が会社からの福利を受けられるように、1年半の休職扱いにしてくれました。そして、伝道を終えたらすぐに職場に帰って来てほしいと言いました。

そして、職場での最後の日が来ました。同僚たちの標準はわたしが守っている標準とは懸け離れているとはいえ、彼らの顔を見たときに、彼らをどれほど愛しているかに気がつきました。近くの机に座っているマリアがこう尋ねました。「一体何が起きているの。どうしてそんなに変わったの。」彼女はわたしの顔から光がさしていると言いました。そして「どうしてなの」とまた尋ねたのです。

わたしは、伝道活動の大切さを新しい角度から理解するようになっていました。わたしは主の僕として召されておられ、聖霊の影響力がわたしを通して輝き出していたのです。

伝道に出る前の週に、天の御父がわたしを準備させてくださったことに感謝しています。職場の同僚にも感謝しています。彼らの目を通して自分の召しの大切さに気づくことができました。それによって、福音に対する証が強めら

れたのです。

フアナ・リベロ・デ・ゴンサレスはメキシコ・メキシコシティ・アルボリーリョステーク、ファレスワードの会員です。

信仰の大きな一歩

ウォルフレ・リカルド・ガリード

初めて専任宣教師に出会ったとき、わたしはまだ15歳でした。二人の青年の表情からは何か特別なものを感じることができました。最初のレッスンで彼らは何を言ったのかあまり覚えていませんが、彼らと話しているときに感じた心地よさを忘れることができませんでした。

わたしは所属していたほかの教会で地元の青少年グループの会長を務めていました。それに宗教を変えることに関心がありませんでした。実際、わたしの兄と姉がバプテスマを受ける決意をしたとき、裏切られたと思ったほどでした。兄と姉の行動を受け入れていませんでしたが、二人に付き添ってバプテ

スマ会に出席しました。認めたくなかったのですが、バプテスマ会では、再びあの心地よさを感じました。

それから時がたつにつれて、わたしはますます宣教師たちと友達になっていきました。そしてついに、教会の青少年グループの会長を辞任しました。それでもまだ自分がバプテスマを受けたいのかどうかよく分かりませんでした。

ある日、長老の一人がワードの会員と一緒にわたしの家を訪問しました。わたしはこう言いました。「長老、わたしもいつか一緒に働かせてください。」すると長老はこう言いました。「残念ですが、宣教師になるには、まず教会員にならなくてははいけないのですよ。」

それから数日して、わたしは長老たちが家に置いていったパンフレットを取りました。一つずつパンフレットを読みながら、長老たちが参照した聖書とモルモン書の聖句を調べました。そしてモロナイの約束を試し、モルモン書が真実かどうかを知らせてくださるようにと祈ったのです。すると、御霊はモルモン書が確かに真実であることを証しました。そしてわたしは宣教師に出会ってから6か月目にバプテスマを受けました。

バプテスマを受けると真っ先に、もう宣教師と一緒に働けるかどうか尋ねました。「アロン神権を受けるまで待たなければなりませんね」と宣教師たちは答えました。それから2週間後にわたしは神権を受けました。わたしはその日、長老たちと伝道に出かけました。一緒に歩いているとき、わたしもいつか専任宣教師になろうと決意しました。

それからの数年間、わたしは末日聖徒の青少年が経験するあらゆる祝福を享受しました。セミナーと若い男性の活動に参加し、聖餐の祝福とバスを行い、そしてついにメルキゼデク神権を受けました。けれども残念なことに、母はわたしの教会活動に反対でした。教会にいた時間が長すぎると言うのです。19歳になって、宣教師の申請書を記入し始めたとき、母はやめるように言いました。わたしは母の気持ちを尊重して、わたしにできるほかの方法で主に仕えることにしました。

それからの4年間、ステーキの書記に召されたわたしは勢力と思いと力のすべてをこの務めに注ぎました。専任宣教師と一緒に働くこともしばしばありました。わたしはいつか専任宣教師になる夢をずっと持ち続けていました。

やがて、セミナーの教師に召されました。ステーキの召しと兼任だったため、とても忙しく、伝道に出ているわけではありませんでしたが、少なくとも主に熱心に仕えているという気持ちを起こさせてくれました。

ある日のこと、姉が二人の幼く愛らしい娘たちを連れて家にやって来ました。それはわたしが24回目の誕生日を迎える1か月前のことでした。時間はどんどん過ぎていきます。自分の人生をどうするのか決めなければなりません。その日、めいの一人がわたしの腕の中で眠ってしまいました。その寝顔を見ているうちに、いつか自分にも子どもが生まれるということを実感しました。そして、子どもたちはこう尋ねるでしょう。「お父さんはどうして伝道に行かなかったの。」

その瞬間、わたしは決心しました。

母にとって、わたしの決意を受け入れることは容易ではありませんでした。母は父と別居していたため、わたしは母にとって、一緒に生活ができる最後の子どもでした。けれどもわたしは自分のしようとしていることが正しいと確信していました。わたしは申請書を記入し、投函しました。ホンジュラス・コマヤグア伝道部への召しが届くと、母は怒り、そして、寝込んでしまいました。しかし時間がたつにつれて母はわたしの決意を受け入れてくれるようになり、最終的には出発の準備をも手伝ってくれました。

宣教師訓練センターに出発する日、わたしは母に神権の祝福を受けました。そして、わたしは宣教師として奉仕するにつれて、「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う」という主の約束の意味を理解するようになりました(教義と聖約82:10)。長い間夢に見ていた召しを手にしたとき、わたしの喜びはどれほど大きかったことでしょうか。主と主の教会の、専任の代表者となったのです。伝道に出るから1年後、母が真理を受け入れて、バプテスマを受けたと知ったときのわたしの喜びはどれほど大きかったことでしょうか。信仰の大きな一歩を踏めたことにわたしは心から感謝しています。

ウォルフレ・リカルド・ガリードはエルサルバドル・アティケザヤステーキ、アティケザヤワードの会員です。

あきらめなかった

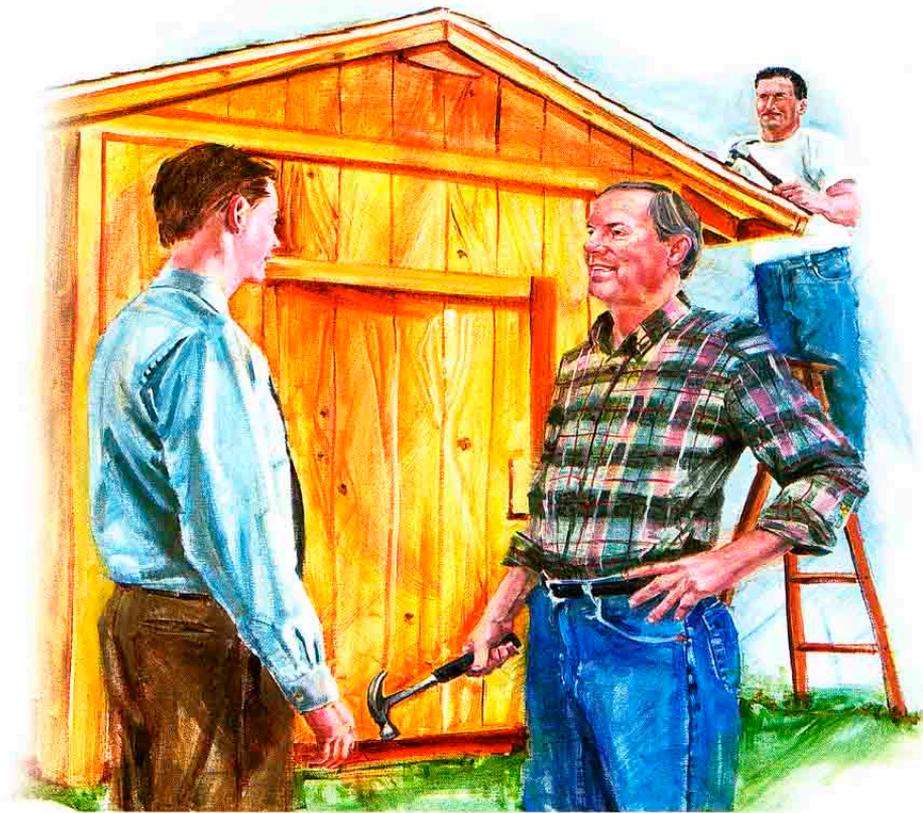
ホームティーチャー デビッド・ヘッド

1965年に妻のアンセアとともに教会に入ってから1年が過ぎたときに、わたしたちはイギリス・ロンドン神殿で二人の幼い娘とともに結び固めを受けました。

当時のイギリスには一つのステークしかありませんでした。神権指導者の数が非常に不足していたため、間もなくわたしは所属していた支部から15マイル(約25キロ)離れた町で支部長として働く召しを受けました。わたしはこの新しい召しに伴うチャレンジを喜んで受け入れ、その後は地方部長会で働き、わたしたちの支部がワードになったときは、監督会で働く召しを受けました。

わたしたちの家族は福音の中で成長していきました。営業の管理職を仕事としていたわたしは次第に忙しくなり、週に2日か3日家に帰れないことがしばしばありました。そして教会外の友人が何人かできました。彼らとつきあうようになってから、わたしは教会の教義に幾つかの面で疑問を抱くようになりました。

わたしは新しく得た、これらの知性あふれる友人たちとの話し合いを楽しんでいました。彼らは聖典を使って、わたしたちの教会がアダムの時代から戒めとして与えられている基本的な概念から外れていることを証明しようとしました。わたしは回復された福音の証を述べて、彼らから離れるべきでした。



家に帰ると、ホームティーチャーはすでに納屋を組み立てていたのです。

しかしわたしは反対に、彼らの話に耳を傾け始めました。教義に関する小さな疑念がふくらんでいきました。間もなく、什分の一を納めることも、神殿へ行くこともやめてしまいました。わたしが教会へ行かなくなったとき、妻は反対しました。家庭の夕べを開かなくなったときには、娘たちからも抗議を受けました。

この期間、二人の教会員はわたしのことを決して見放しませんでした。我が家のホームティーチャーは毎週日曜日になるとわたしを教会に誘ってくれました。直接家に訪問して来ることもありましたが、そうでなければ電話を掛けてきました。少なくとも毎月1度、時には2度も訪問してくれました。ホームティーチャーはわたしたちが何を必要としているかさえも知っていました。特に忘れられないのは、庭に置く納屋を注文したときの事です。その納屋はわたしが不在の間に、組合わさっていない状態

で届けられたのです。家に帰ると、ホームティーチャーはすでに納屋を組み立てていたのです。

わたしは特にホームティーチャーの先輩同僚であるデス・ゴーマン兄弟を尊敬していました。彼はアイルランド系のカナダ人でした。誠実な人で、人々に心からの関心を寄せていました。わたしにとって彼は教会の代表者でした。わたしは出席していませんでしたが、教会は素晴らしい組織であるに違いないと感じさせてくれました。

我が家にもついに男の子が誕生しました。ホームティーチャーは断食証会で幼児の命名と祝福することが神権の儀式であることを思い出させてくれました。わたしは気乗りしなかったのですが、最終的には、ほかの人たちによって息子を祝福してもらうことに同意しました。

ゴーマン兄弟はわたしに代わって、息子のロナンに素晴らしい祝福を授け

ました。わたしはその祝福に耳を傾けているとき、御霊によって力強い証を受けました。わたしは高慢でした。大きな間違いを犯していました。回復された福音が真実であることについての証を危うく失うところでした。家族を失うまでに至っていませんでしたが、福音のもたらすすばらしい平安を失いかけていました。妻とゴーマン兄弟と監督会の支えによって悔い改めたとき、わたしはむせび泣きました。

そのときからわたしは教会に活発に集っています。ホームティーチャーは引き続きわたしを支えてくれています。あの子は幼子は今や、伝道から帰って来て、神殿で結婚し、自分の家族を築いています。息子の生活を見ると、彼に命名と祝福をしてくれた人を思い出して、感謝の気持ちが込み上げてきます。

自分たちの責任を真剣に受け止めた二人の献身的なホームティーチャーへの感謝はいつまでも尽きないでしょう。ゴーマン兄弟は何年か前に亡くなりましたが、わたしは彼のことを忘れないでしょう。また彼が忍耐強く、わたしに戻るように誘ってくれたことを忘れないでしょう。彼は決してあきらめませんでした。

今日、わたしは自分のホームティーチャングや教会のほかの召しを果たすときに、彼の静かで愛にあふれる忍耐強さを見習うように努めています。□

デビッド・ヘッドはイギリス・チェルトナムステーキ、ウースターワードの会員です。

生徒を動かす レッスンへの参加を 促す方法

効果的なレッスンはクラスの生徒が参加するときに可能となります。

あるステーキの指導者がワード大会で長老定員会の会員たちにレッスンをしていました。この指導者がレッスンの準備に相当の時間を費やし、努力を払ったことは明らかでした。加えて、彼の話し方には誠実さが感じられました。しかし、定員会の会員たちはレッスンに集中せず、中にはそわそわと落ち着きのない人たちさえいました。どうしてでしょう。閉会の祈りの後で、自分のレッスンについて考えたその教師は、あることに気づきました。生徒たちを参加させる代わりに、自分ばかりが長々と話をしていたのです。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は最近、教会員が福音の教え方を改善する必要性について強調しました。「さて、現在預言者は、神の言葉を聞くことによってさらに信仰を増すよう求めています。そのような今だからこそ、教会の優れた教え方について改めて認識し、尊重しなければならないのです。」(「神からこられた教師」聖徒

ジョン・D・クレイボーと
アンバー・バーロー・ダール

の道』1998年7月号、28参照)

効果的な福音の教え方

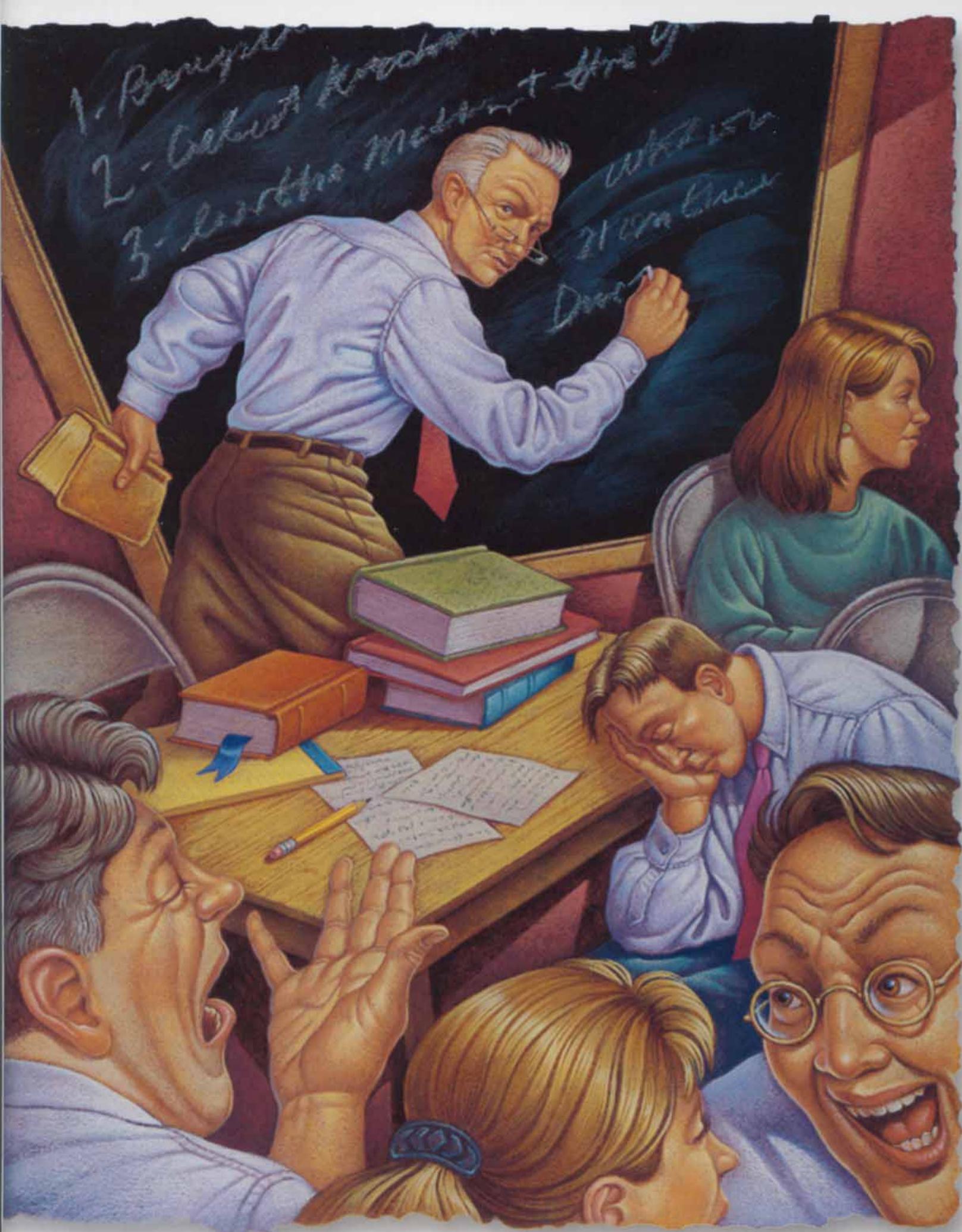
福音を教える教師の役割は「福音を学ぶ責任を引き受けられるように個人を援助すること、すなわち、福音を研究し、理解して、福音に従って生活する意欲を持たせ、その方法を示すことである。」『教師、その大いなる召し』61)

「学ぶという行為が、生徒たちの中に起こらなければなりません。ですから、動かされなければならないのは、生徒たちの方なのです。」アサヘル・D・ウツドラフ、*Teaching the Gospel* [1962年、37] 効果的な教師は、自分の持っている知識を与えるというよりはむしろ、生徒自身が自分から知識と靈感を求めたい

という望みを強めていけるように助けます。

家庭であれ、教会のクラスであれ、教師が自分の知識や成長ぶりをほかの人々に「見せつけ」ようとするときにレッスンの効果は薄れます。聖餐会や大会、その他の正式な場面で、話者が聴衆の参加を促すことは通常ありません。しかし、教室では、主によって確立された方法に従うのです。主は預言者の塾にこう指示されました。「あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして、全員が同時に語ることなく、一時に一人を語らせて、すべての者が彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは、すべての者が語って、すべての者が互いに教化し合うように、またすべての人が等しい特権を持てるようにするためである。」(教義と聖約 88:122、強調付加)

では、生徒が福音のレッスンに積極的に参加するのを助ける方法にはどんなものがあるのでしょうか。



レッスンで教える内容の量は、

クラスの生徒一人一人が

御霊の影響を感じるよう

助けることに比べれば、

それほど重要ではない。

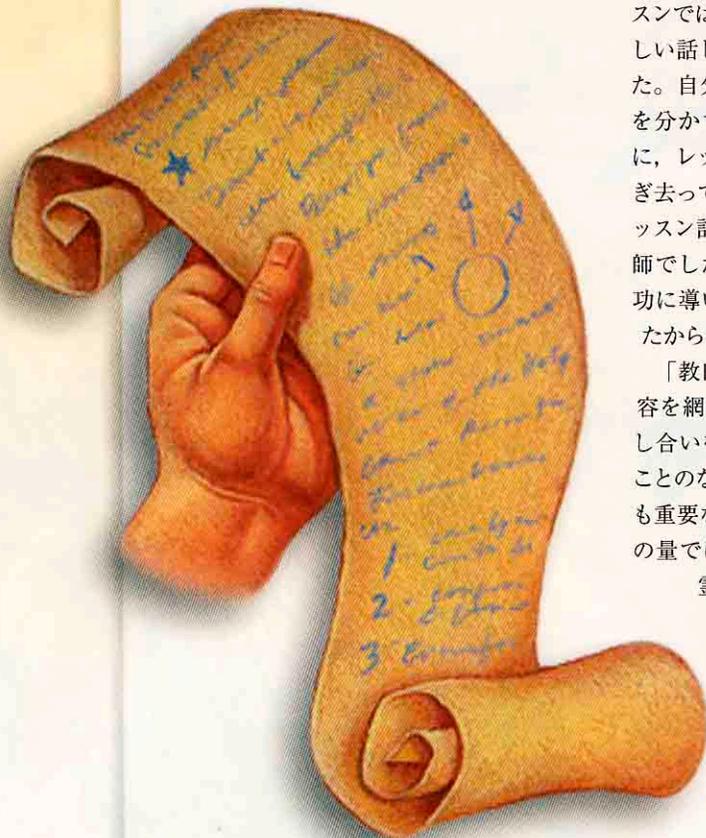
1. 話しすぎない

レッスン中の話をする時間が90パーセントという教師は、恐らく話しすぎと言えます。もちろん、教師として説明や指示を加えたり、実例や物語を紹介したり、証^{あかし}をしたりすることは必要でしょう。しかし、教師の話は、生徒の参加を促すために計画されたものであるべきです。効果的なレッスンとは、生徒が40パーセントから60パーセントの発言時間を許されるレッスンと言っても差し支えありません。このアプローチの仕方は、教師が単なる講師や情報の提供者になるの

を防いでくれます。その代わりに進行役となって、生徒が聖文から学べるように、ほかの生徒から学べるように、また、御霊^{みたま}から学べるように助けることができます。もちろん、その日のレッスンを紹介し、基本的な原則を押さえ、レッスンの最後にその日学んだ教義を明確にし、まとめる必要はあります。しかし、そのために膨大な時間を使ってしまうことのないように注意しなければなりません。

ある日曜学校の教師が、教義と聖約の135章から137章についてのレッスンを準備しました。しかし、実際のレッスンでは、135章の原則に関するすばらしい話し合いに生徒全員が参加しました。自分自身の洞察や経験、そして証を分かち合う生徒がたくさんいたために、レッスンの時間はあっという間に過ぎ去ってしまいました。最初のうちはレッスン計画をくじかれてやきもきした教師でしたが、後になってレッスンを成功に導いたのは生徒たちの参加があったからだということを悟りました。

「教師は、準備してきたすべての内容を網羅しようとするために、良い話し合いを中途半端に終わらせてしまうことのないように注意すべきである。最も重要なことは、レッスンで教える内容の量ではなく、クラスの生徒たちが御霊の影響を感じ、福音の理解を増し、福音の原則を彼らの生活で応用することを学び、福音に添った生活をする決意を強めることである。」
〔『教会指導手引き第2部』〕





参加することにより 成長する

「クラスの生徒がもっと聖文の読書課題を読み、もっと頻繁にクラスに聖典を持参し、生活の中で福音が実際にどんな意味を持つのか、もっと話し合うようになればなるほど、個人的な悩みや問題を解決しようとするとき、ますます多くの靈感を受け、成長し、喜びを見いだすようになるでしょう。」——十二使徒定員会、ジョセフ・B・ワースリン長老(“Teaching by the Spirit,” *Ensign*, 1989年1月号, 15) □



記されていますか。

■ ____は……を理解するのにどのような助けとなりますか。

■ これらの節の中で線を引いたり印を付けたりしたいところがありますか。どの部分ですか。どうしてですか。

■ 自分の言葉で表現するとしたら、どう言いますか。

■ このことから、どんな結論が導き出されますか。

■ このことを生活にどのように応用できますか。

■ このことに関して、何か言いたいことはありますか。どんな感想がありますか。

■ 今ここで、この原則に関する証または経験を分かち合いたい人はいますか。

1 ニーファイ16章を教えるための質問の例をいくつか挙げます。

■ ニーファイが弓を折ったとき、リーハイの家族はそれぞれどのように感じましたか。

■ どの節にニーファイの気持ちが記されていますか。

■ だれか、チャレンジまたは苦難が霊的な成長につながった経験について話してもらえませんか。

■ この章のどの節がいちばん好きですか。なぜそこが好きですか。

必ず生徒たちに時間を与えてください。あなたが質問するとき、また、参加するよう呼びかけるとき、生徒たちは考えたり、答えたりするために時間が必要なのです。沈黙を気まずく思う必



「福音の教授と指導」の章, 306)

2. 効果的に質問する

レッスンを始めるために、教師はクラスの生徒に聖文の中の一節を読ませたりレッスン資料の中から引用文を読ませたりしてもよいでしょう。それから、有意義な答えを引き出すような質問をするとよいでしょう。通常、単に「はい」か「いいえ」の答えを要求する質問、クラスの大半の生徒が答えを知っているような質問、教師の期待している答えを推測しなければならないような質問をしても、生徒を参加させたり有意義な答えを促したりすることはできません。そのような質問の代わりに、たとえば以下のような質問をすることができるでしょう。

■ これらの節はあなたにとってどのような意味がありますか。

■ ……節にはどのような福音の原則が

**効果的に教えることのできる
福音の教師は、
謙遜で、自分はわき役に回り、
クラスの生徒に
大切な役割を与えます。**

要はないということをクラスの生徒たちに知ってもらってください。例えば次のように告げることができるでしょう。「しばらく時間を取って、このテーマについて考えてみましょう。答える準備のできた人がいたら、手を挙げてください。」あなたが沈黙を心地よく感じていれば、クラスの生徒たちも同じように感じることでしょう。教師は、クラスの生徒にプレッシャーを感じさせて個人的な経験や気持ちを話させるべきではありません。生徒が自ら進んで発表するのでなければ、強要してはなりません。経験の中には、きわめて神聖で人と分かち合えない種類のものもあるのです。

3. 肯定的な評価をする

「誠実なあらゆる意見に対してあなたが肯定的に対応するならば、生徒が話し合いに参加する自分の能力について自信を持つように助けることになる。」『教師、その大いなる召し』64) 教師は、どんな質問、意見、気持ち、経験、証も、ばかにしたり、批判したりしてはなりません。礼儀と愛を示し、最善を尽くして、生徒の参加を促して、よいクラスにするための助けを得てください。時として、あなたは思いやりをもって、教義上の誤解を正さなければならないことがあるかもしれませんが。そのようなときでも、自分たちの発言は価値があり、自分たちの参加は大切であると、生徒たちが感じられるよう、教師は助けることができるのです。生徒たちは社会的、情緒的、靈的に思い悩みながらも、個人的な洞察を分かち合っ

ているのだということを中心に留めておいてください。肯定的な評価が得られなければ、そのような洞察を再度分かち合うのをためらうようになるでしょう。

生徒の意見によってレッスンが自分の意図しない方向へ進みそうに思えてもあまり心配しないでください。たとえレッスンを進めるうえで助けとならないような意見であっても、その意見に対して肯定的な反応を示し、新しい話題に切り替え、もう一度参加を促してください。クラスの生徒から出された意見に答える際の方法を幾つか紹介しましょう。

■そのような意見を出して下さって感謝しています。

■いい表現の仕方ですね。

■自分の気持ちを分かち合ってください感謝しています。

もっと参加を促すために次のように言うこともできます。

■それはいい質問ですね。だれかこの質問に答えたい人はいませんか。

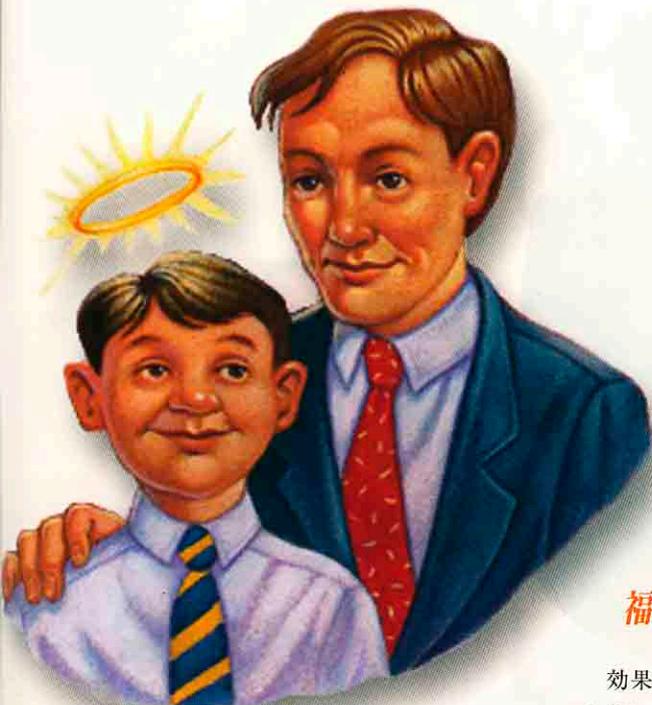
■興味深いですね。どういう意味かもっと説明していただけますか。

■どうしてそう感じるようになりましたか。

もし、クラスの生徒が不適切なこと、または間違ったことを発言したら、次のように言うといいでしょう。

■ありがとうございます。わたしが皆さんに考えていただきたい原則というのは……。

■そのような考え方も耳にしたことがあります。わたしが理解しているところでは……。



いう意図で、クラスの生徒に恥ずかしい思いをさせたり、気まずい思いをさせたりしないようにしなければなりません。

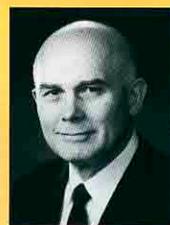
福音を教える喜び

効果的な福音の教師は、謙遜で、わき役に回り、クラスの生徒に大切な役割を与えます。かつて中央若い女性会長会第一副会長を務めたバージニア・H・ピアス姉妹は次のように語っています。「熟練した教師は……生徒がクラスを出るとき、教師のすばらしさについて話してほしいと思うのではなく、福音のすばらしさについて話してほしいと思うのです。」(「教室——着実に絶えず成長する力を与える場所」『聖徒の道』1997年1月号, 12)

イエス・キリストの福音はほんとうにすばらしいものです。そして、クラスの生徒が持っている知識や気持ち、意見や経験、そして証を引き出すことによって、そのすばらしさを輝かすよう努めることができます。効果的に福音を教えることで、「すべての者が互いに教化し合うよう」になるのです。□

ジョン・D・クレーボーはコスタリカ・サンホセ伝道部の部長です。アンバー・バーロー・ダールはアイダホ州イーグルステーク、センテニアルワードの会員です。

クラスの生徒の中には、いつも進んで質問に答えたり、意見を言ってくれたりする人が一人または二人はいるものです。進んで参加しようという姿勢に感謝してください。ただハワード・W・ハンター大管長(1907-1995年)は次のように勧めています。「わたしたちの中には次のような落とし穴に落ちてしまう人もいますが、決してこの落とし穴に落ちないでください。その落とし穴とはすなわち、いつも快活で、熱心で、正しい答えを出す準備のできている生徒にばかり当ててしまうことです。答えるのをためらっている人を見て、質問してください。彼らは、恥ずかしがり、遠慮がちで、たぶん心に悩みがあるかもしれません。」(Eternal Investments [教会教育システム講師に対する説教, 1989年2月10日], 4)とはいっても、いかなる理由であれ、あまり質問に答えたくないと思っている生徒を、圧力や強制によってレッスンに参加させようとしてはなりません。また教師はすべての人をレッスンに参加させようと



レッスンを教えるのではなく、生徒を教える

「福音の教師は自分のことを中心に考えたりしません。この原則を理解している人は『レッスンを提示すること』が自分の召しであるとは考えません。なぜならば、レッスンの提示に重点を置いた教え方は、教師の視点に基づいたもので、生徒の立場に立って教えるものではないからです。」——十二使徒定員会、ダリン・H・オークス長老(「福音を教える」『リアホナ』2000年1月号, 95) □



末日の預言者たち、 福音の教えについて 語る



第9代大管長、デビッド・O・マッケイ
(1873-1970年)

「指導者や教師は、指導者や教師自身を大切にするように会員を指導するならば、割り当てられた働きを果たせません。指導者や教師を愛するのではなく、福音の真理を愛するように会員に教えることは指導者の義務であり、また教師の義務です。いつでも、どこでも、わたしたちはキリストが御父の御心のために御自身を後回しにされたことを知っています。したがって、指導者や教師も、キリストに望まれている真理のために自分自身を後回しにしなければなりません。」

人々がイエスのもとに来て、パンすなわち真理を求めたとき、イエスは石で彼らを去らせようとは決してされませんでした。イエスは与える真理を常にお持ちでした。イエスは真理を理解しておられました。それはイエスの存在そのものから輝き出ていました。イエスは聴く者たちにその真理を印象づける実例の用い方、周囲にある自然の事物の使い方を理解しておられました。言い換えれば、イエスは話題が豊富で、その話題を聴く者たちに提示する力を備えておられたのです。子どもたちや青少年たちに感化を与えるのは、あるいは同僚たちに感化を与える

のは、必ずしもあなたが語る事柄ではなく、あなたのあるがままの状態なのです。最も知恵に富んだアメリカ人の一人〔ラルフ・ウォルドー・エマソン（訳注——アメリカの作家。1803-1882年）〕はこう語っています。『普段のあなたの人となりわたしの耳に雷のように鳴り響くので、わたしにはあなたが何を語っているのか聞き取れません。』（Conference Report, 1968年10月, 143-144）



第12代大管長、スペンサー・W・キンボール
(1895-1985年)

「オクラホマのハイウェーを北に向かって車を走らせていたときのことです。午後の太陽が雲に隠れて見えなくなったのに気づきました。次第に薄暗くなり、不気味さが増してきました。『嵐になりそうだ。』わたしたちは言いました。暗さが増し、風の吹く音がし始めました。『この嵐は激しくなるな。』やがて嵐がとともひどくなったとき、わたしたちは言いました。『この雨と嵐はまったくの嵐になってしまった。』

今は荒れ狂う時代です。新聞紙面の暴力記事は増加しており、雑誌では増えてきた悪徳行為にページが割かれています。……

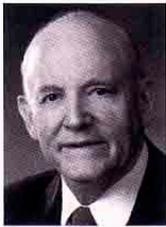
それを止めることは可能でしょうか。その流れを変え、



混乱から品位と秩序を取り戻せるでしょうか。『可能です。』積極的に大声で、『可能です』と答えます。しかし、その解決は容易ではありません。……

家庭生活、家庭での教え、親の指導が、すべての病気に対する万能薬であり、治療法であり、すべての問題に対する矯正法です。……

わたしの兄弟姉妹たち、神の息子、娘たち、キリストの教会の会員たち、すべての宗教教派の人々、すべての国の人々、この普通の万能薬によって傷を癒し、子どもたちを主の方法で教え訓練するという簡単な方法で、悪から守るようにしましょう。シオンのすべての父親と母親、すべてのカトリック教徒、プロテスタント、ユダヤ教徒、回教徒、またその他すべての両親には、同じ責任、すなわち祈ることと主の前をまっすぐに歩むことを子どもたちに教える責任があるのです。」(Conference Report, 1965年4月, 60-65)



第14代大管長、ハワード・W・ハンター (1907-1995年)

「しばしの時を頂いて、わたしの印象に残っている少年時代の一つの小さな出来事について述べたいと思います。……

まだ朝も早い、ある夏の日のことでした。わたしは窓辺に立っていました。ふと見ると、芝生の上に二つの小さな生き物がいます。一つは親鳥であり、もう一つは、明らかに巣から出たばかりと分かるひな鳥でした。わたしの姿はカーテンの陰になって外の芝生にいる鳥の方からは見えませんでした。親鳥を見ていると、芝生の上をぴょんぴょん跳びはね、足元をつつき始めました。

そして、頭をびくっと動かすと、大きな太ったみみずを芝生の



中から引っ張り出して、跳びはねながら戻って来ました。ひな鳥はくちばしを大きく開けましたが、親鳥は自分でそのみみずを飲み込んでしまいました。

眺めていると、親鳥は木の上に飛び上がり、しばらく木の皮をつついていましたが、やがてその口に大きな虫をくわえて戻って来ました。ひな鳥はくちばしを大きく開けましたが、親鳥はその虫も飲み込んでしまいました。そして、それに抗議するやかましいさえずりが聞こえました。

そのうち親鳥は飛んで行ってしまい、戻って来る気配はありませんでした。わたしはひな鳥を見続けました。しばらくすると、そのひな鳥は芝生の上を跳びはね、足元をつついたかと思うと、頭をびくっと動かし、芝生の中から大きなみみずを引っ張り出したのです。

わたしたちの子どもや青少年を教える善良な人々に神の祝福がありますように。」(「教師」『聖徒の道』1973年2月65月号, 参照)



第15代大管長、ゴードン・B・ヒンクレイ (1910年-)

「わたしは、指導者としての責任を受けているすべての人に、教師と宣教師たちで作られている大きな軍勢に、家族の長に、心からお願いしたいと思います。皆さんのすべての力を、霊に糧を与えること、魂を養うことに向けてください。……

わたしは世界が霊的な食べ物に飢えていると確信しています。いにしえのアモスは、次のように預言しました。『主なる神は言われる、「見よ、わたしがききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくでもない、主の言葉を聞くことのききんである。

彼らは海から海へさまよい歩き、主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう。

その日には美しいおとめも、若い男もかわきのために氣を失う。』(アモス8:11-13)

地には飢えがあります。そしてほんとうの渇き、すなわち主の言葉へのひどい飢えと、霊にかかわる事柄への満たされない渇きがあります。魂に養いを与えるのは、わたしたちに託された義務であり、機会でもあります。」

(Conference Report, 1967年10月, 89-90) □

「糧を受け取る」ヨセフ・スミス」ロバート・T・ハレット画。ブリガム・ヤングの宣教師、ウィルフォード・ウッドワフの宣教師、フォート・インズトレ、シオン・マシー、ライアイ

御存じでしたか？



「あなたが何者であろうとも、あなたの役目を十分に果たしなさい」

1898年、後に教会の第9代大管長になるデビッド・O・マッケイ(1873-1970年)はスコットランドで宣教師として働いていましたが、ホームシ

ックにかかっていた。マッケイ長老はスターリングの町に来てまだ2、3週間しかたっておらず、落胆していたときでした。マッケイ長老と同僚は、ある日、スターリング城の周りを歩きながら朝の時間を過ごしました。町に戻る途中、建築中の建物が目に留まりました。「正面玄関の上には」とマッケイ大管長は後に述懐しています。「住宅にはあまり見られない石造りのアーチがあり、さらに珍しいことに、そのアーチに文字が刻まれているのが歩道から見えたのです。

わたしは同僚にこう言いました。「これは珍しい。あの文字が何なのか見てきます。」近づいてみると、そ

の言葉がわたしに迫ってきたのです。単に石に刻まれているだけではなく、まるでわたしたちが奉仕しているその御方から発せられたかのように思われました。次のように刻まれていたのです。

『あなたが何者であろうとも、あなたの役目を十分に果たしなさい。』(Conference Report, 1956年10月, 91)

あの朝この若い長老が受けたメッセージは、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師としての役目を十分に果たすようにというものでした。また同時に、マッケイ大管長が奉仕の生涯を通じて実行し、教えたメッセージでもありました。



それは9月の出来事でした

教会歴史において9月に起きた重要な出来事を幾つかご紹介します。

1823年9月21-22日、天使モロナイがジョセフ・スミスに現れ、古代の記録が存在することを告げました。この記録から、ジョセフは後にモルモン書を翻訳しました。

1827年9月22日、ニューヨーク州パルマイラの自宅近くにあるクモラの丘で、ジョセフ・スミスが天使モロナイから金版を受け取りました。

1850年9月9日、合衆国連邦議会がユタ準州を創設し、9月20日にブリガム・ヤングが同準州の知事に任命されました。

1898年9月2日、ウィルフォード・ウッドラフ大管長がカリフォルニア州サンフランシスコにおいて91歳で亡くなり、同年9月13日にロレンゾ・スノーが教会の第5代大管長になりました。

指導者へのヒント

指導的な地位に召された人々は、時として自分の能力に自信を持ってないことがあります。自分自身を他人と——奉仕するよう召されている人々とさえ——比べ、自分がふさわしくないと感じてしまいます。

十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老のお話から、自分自身をほかのだれとも比べる必要がないことを思い出します。主は、ただわたしたちができることをするよう望んでおられます。「皆さんが心配する必要のあることは唯一、」とワースリン長老は話されました。「最高の自分になるよう努力することです。皆さんはどのようにして努力するのでしょうか。人生で最も大切な目標に注意を集中させてください。そして、目標に向かって一步一步前進して行くのです。」(「一歩ずつ」『リアホナ』2002年1月号, 29参照) □



『リアホナ』 2002年9月号 の活用法

レッスンのためのアイデア

■「忍耐一天の徳」2ページ——トーマス・S・モンソン副管長は、辛抱強く堪え忍んだドイツ民主共和国の聖徒たちについて話しています。祝福師の祝福など、主がお与えになった約束で、成就するのを待ち望んでいるものはありますか。ドイツの聖徒たちのように、忍耐と信仰を身に付けるにはどうしたらよいのでしょうか。

■『『彼らを最後まで愛し通された』』10ページ——ジェフリー・R・ホランド長老は、決して絶えることのない、ある事柄について説明しています。それは、キリストの純粹な愛です。霊的な糧と支えを供給する、この無限の源にどうしたらあずかることができますか。

■『わが友、そして僕仲間』14ページ——自分の問題にとらわれすぎ、自分を必要としている人々に手を差し伸べられなかったことはありますか。どのようにすればルアン・フェリックス・ダ・シルバのように、ほかの人々の必要に心を向けることができるのでしょうか。

■『天の窓を開く』F2ページ——ジェームズ・E・ファウスト副管長の祖父は、農場でとれたものの中から最高のものを什分の一としてささげました。什分の一をお金で納める今日こんにちにおいても、同じ精神を表すためにはどんなことができるのでしょうか。

写真/ケリー・ラーセン

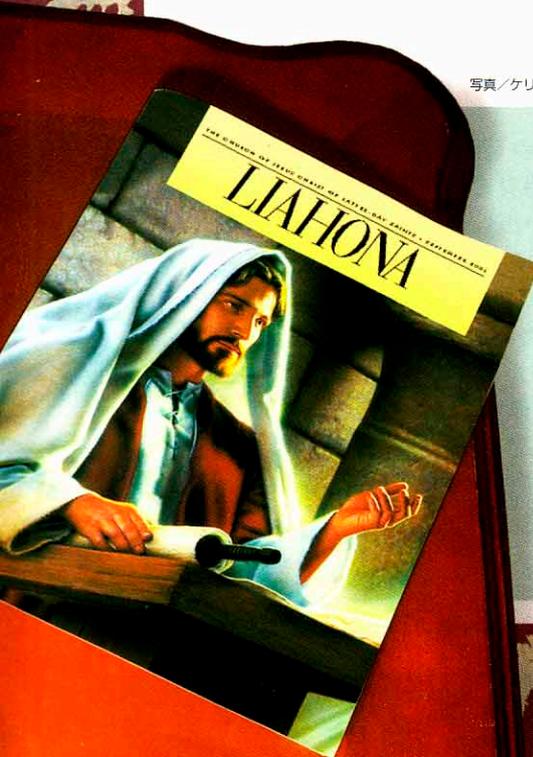
今月号に採り上げられているテーマ

「F」は「フレンド」の略

愛	10
イエス・キリスト	2, 10, 32, F2, F12, F14
一致	F10
祈り	9, 16, 26
教え	25, 38, 44, 48
改宗	26, 32, F8, F10
活発化	32
家庭の夕べ	48
家庭訪問	25
感謝	16
犠牲	F12
奇跡	F14
逆境	2, 10, 22
旧約聖書	9
教育	16, 25
教会歴史	47
謙遜	16
支持	10
指導性	26, 47, 48
従順	F10
什分の一	F2
初等協会	F4
神権の祝福	22
信仰	32, F10
神殿と神殿活動	14, F4
新約聖書ものがたり	F12, F14
真理	16
聖文研究	9, 26
知恵の言葉	16
伝道活動	26, 32, F4, F6, F8
忍耐	2
標準	16
奉仕	2, 14, 32
ホームティーチング	8, 32
模範	14, F4
預言者	16, 44

家庭の夕べの体験談を募集しています

最も有意義だった家庭の夕べについての経験談を募集しています。その家庭の夕べで何をしたか、何が効果的だったのかを教えてください。皆さんのアイデア、経験、それにまつわる話をFamily Home Evening Experiences, Liahona Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA, またはEメールで CUR-Liahona-Imag@ldschurch.org までお送りください。必ず氏名、住所、電話番号、ステーク/地方部、ワード/支部を明記してください。



専任宣教師

2002年6月(271期生)15人・海外4人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



井川聖美
広島伝道部
東京南ステーク
渋谷ワード



内山澄恵
広島伝道部
仙台ステーク
長町ワード



大久保由夏
広島伝道部
金沢ステーク
福井ワード



大高有未子
仙台伝道部
町田ステーク
藤沢ワード



荻田晃正
東京北伝道部
高松地方部
丸亀支部



喜納祥子
東京南伝道部
那覇ステーク
那覇東ワード



児玉ゆかり
仙台伝道部
鹿児島地方部
宮崎支部



陳慧如
広島伝道部
台湾・東北ステーク
基隆ワード



築山愛美
東京北伝道部
岡崎ステーク
刈谷ワード



堂野和人
仙台伝道部
大阪堺ステーク
泉南ワード



中原幸司
名古屋伝道部
松山地方部
今治支部



曳地由貴
広島伝道部
仙台ステーク
長町ワード



福田直弘
仙台伝道部
高松地方部
徳島支部



堀川廉
福岡伝道部
名古屋西ステーク
岐阜第2ワード



山本智彦
東京北伝道部
大阪堺ステーク
河内長野ワード



朝倉ウード・敏樹
イングランド
マンチェスター伝道部
東京南ステーク
洗足池ワード



清野初穂
ネバダ州
ラスベガス西伝道部
オハイオ州コロンバスステーク
ダブリンワード



園田絵里
中国・香港伝道部
東京南ステーク
洗足池ワード



高山久貴
ハワイ州
ホノルル伝道部
宇都宮地方部
小山支部

*

ブックセンターだより

●多目的証明書(レターサイズ)
カタログ番号31507 300 50円

初等協会、青少年をはじめとする様々な場において、すぐれた事柄を達成した人に贈ることができる証明書。高級紙に美しいイラストを添えてフルカラーで印刷されている。

役員の変動

2002年7月10日から2002年8月16日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の変動 (敬称略)

- 新潟地方部長岡支部
支部長：小林 強
- 日本広島伝道部
第一副部長：大嶋 誠
第二副部長：武田 智幸
- 高松地方部徳島支部
支部長：國見 重和
- 宇都宮地方部三和支部
支部長：岩永 晴幸
- 高松地方部高松支部
支部長：荒瀬 俊彦
- 東京東ステーク長生ワード
監督：新野 良

お詫びと訂正

●2002年7月総大会号95頁、中央扶助協
会会長ポニー・D・パーキン姉妹の話
において、終わりから2段落目の英文
の解釈に誤りがありました。正しくは
以下のとおりです。

「伝道地からの出発を前にした一人の
姉妹宣教師のことが思い出されます。
彼女は最後の証でこう述べました。
『わたしが伝道に出たのは、天のお父
様を愛していることをお父様に知っ
ていただき、お父様に感謝を表し、
そしてお父様にお返しをしたかった
からです。』そしてこう言いました。
『わたしは、お父様に対して、ここ
に来る前よりも大きな恩を感じながら、
伝道地を後にします。』
謹んでお詫びし、訂正いたします。

皆さんの情報をご提供ください

『リアホナ』では、皆様からの情報をも
とに編集企画を立てています。誌面に対
するご意見、ご要望、また全国の教会員
に紹介したい特別な経験、証、業績など
をお持ちの方があなたの身近におられ
ましたら、お気軽にご一報ください。

◎あて先：〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト
教会 『リアホナ』編集室

TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、
その他商品に関するお問い合わせは—
教会配送センター

TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392



「エリコの町を攻め取る」フランク・アダムズ画

「そこで民は呼ばわり、祭司たちはラッパを吹き鳴らした。……石がきはくすれ落ちた。
そこで民はみな、すぐにとって町にはいり、町を攻め取った。」(ヨシュア6:20)



「指導者や教師を愛するのではなく、福音の真理を愛するように会員に教えることは指導者の義務であり、また教師の義務です。いつでも、どこでも、わたしたちはキリストが御父の御心^{みこころ}のために御自身を後回しにされたことを知っています。したがって、指導者や教師も、キリストに望まれている真理のために自分自身を後回しにしなければなりません。」

デビッド・O・マッケイ大管長

「末日の預言者たち、福音の教えについて語る」

44ページ参照

